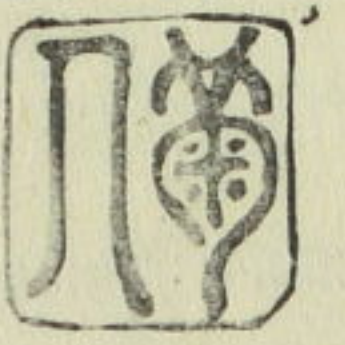




Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting from the top left and moving downwards. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key. The text appears to be a formal document, possibly a letter or a record, given the use of capital letters and the structured layout. The ink is dark and the paper shows signs of age, including some staining and discoloration.

洛西翠雲樓
 菊人識



逸人



名者也



世の

玉路乃

心乃反二



かしら
 かしら
 かしら
 かしら
 かしら



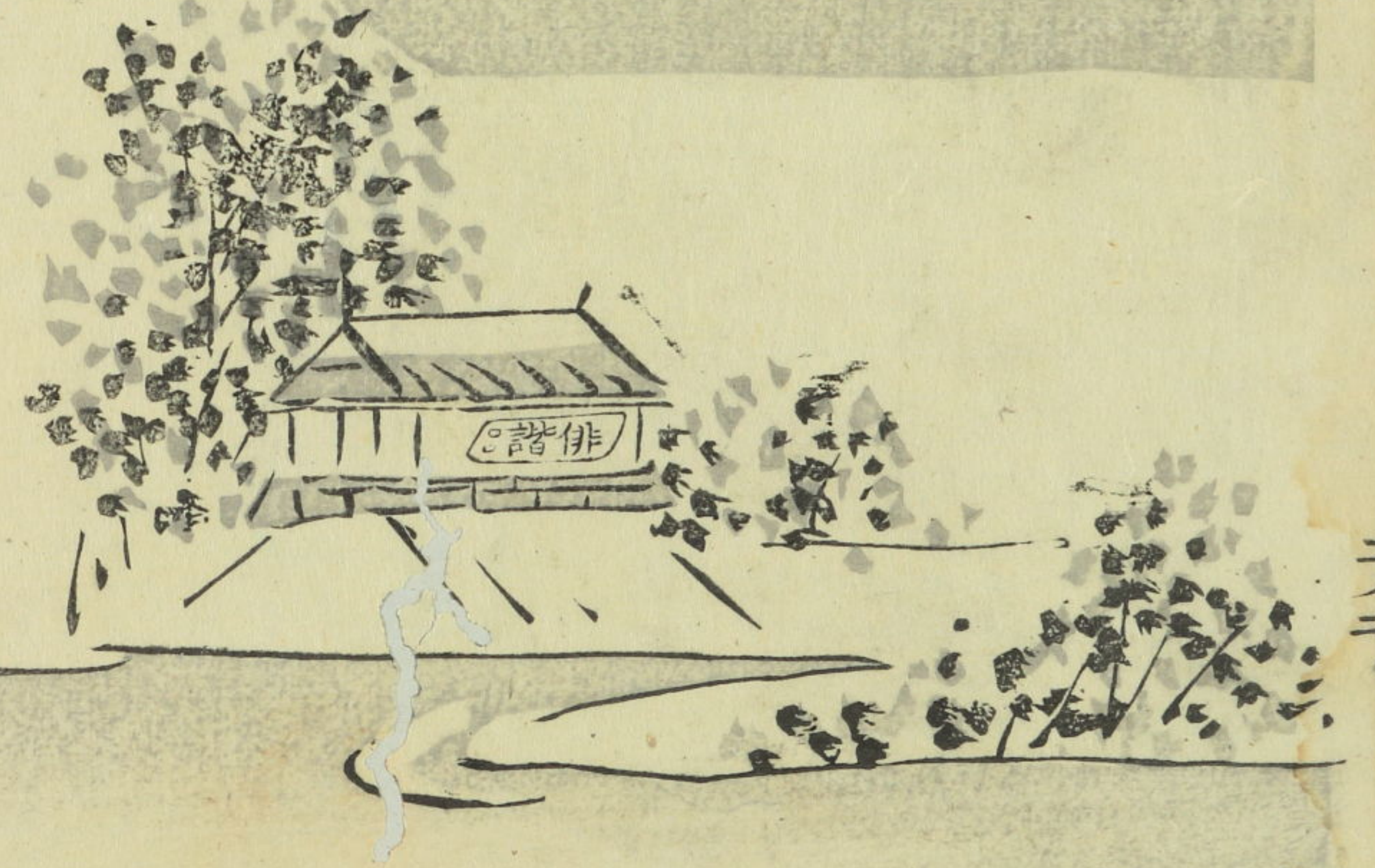
女
 女
 女
 女
 女



里子改名
 龍女
 手ら也



月
 月
 月
 月
 月



俳諧

白葉丸

しらぬ

ほころぬ

にちひのり

洗宗



筆文知



筆文

筆文

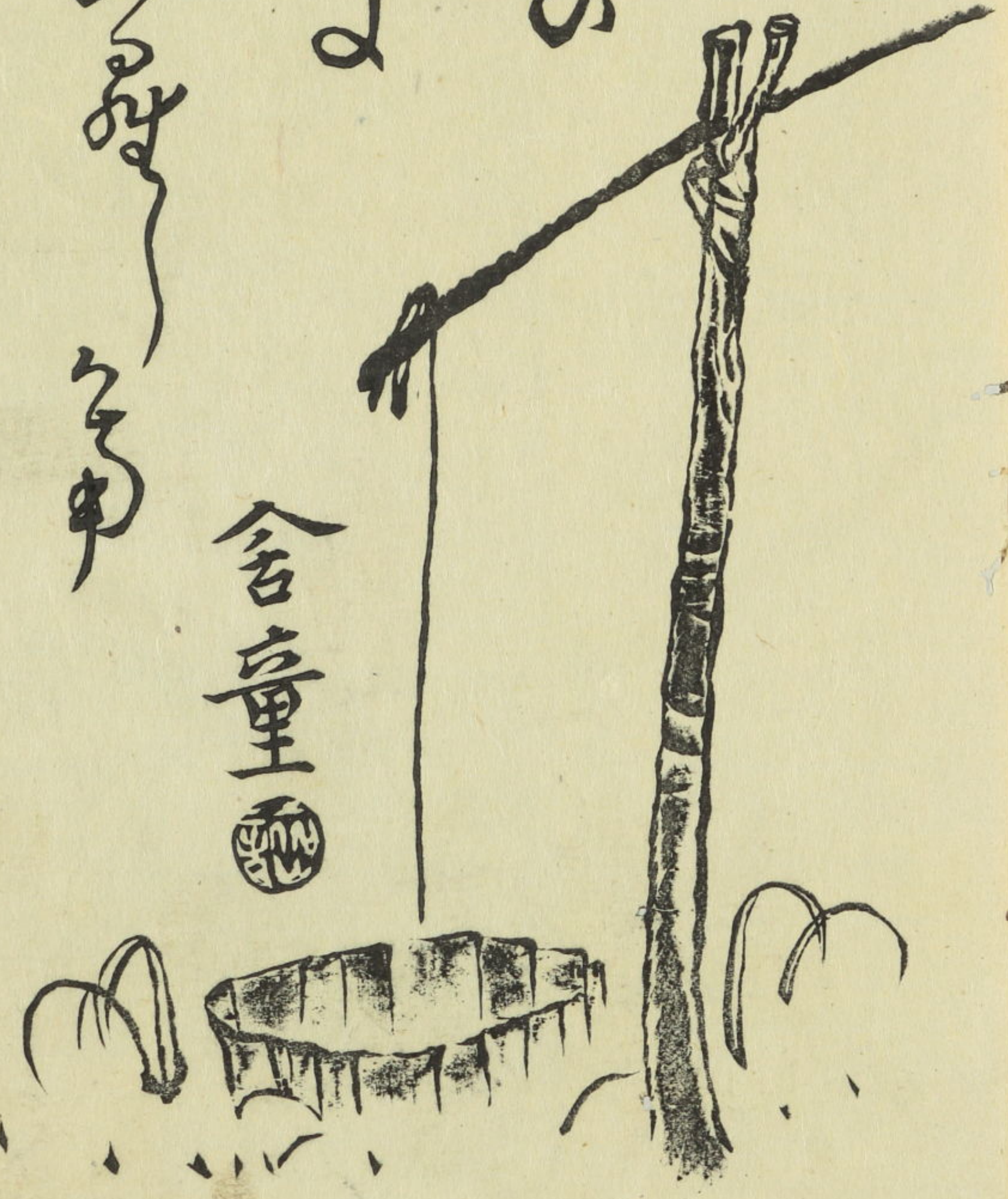
筆文

筆文

松山あはれ

あはれ

山荘の



含童



留白
木々々々々
ま
あしり



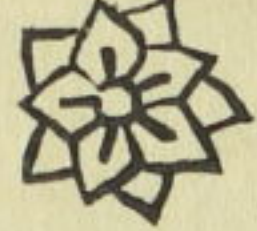
江戸
田喜
謎字

朝寒乃

鳥をに久し

瓦らには

かき

朝寒 

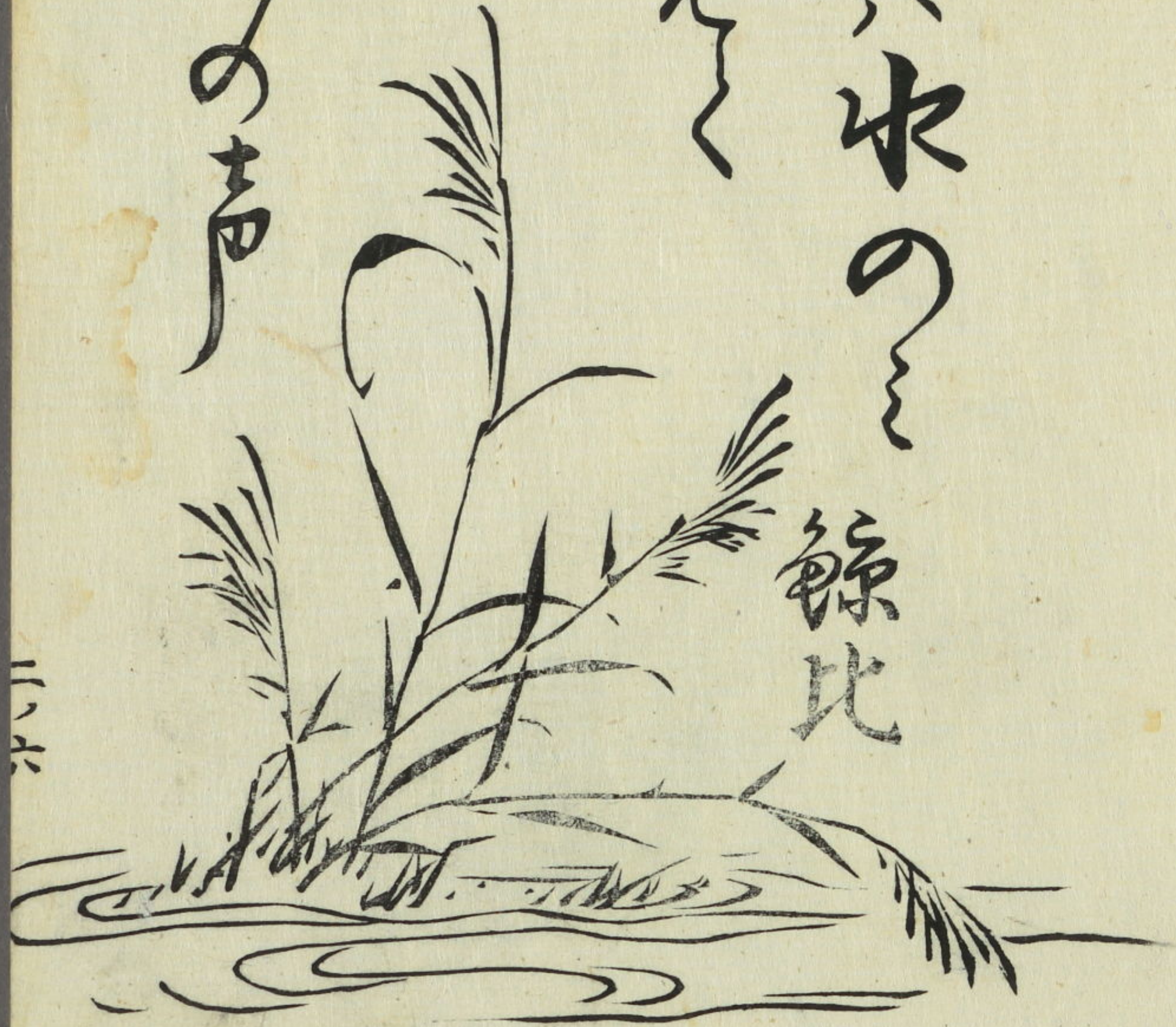


炬火の氷の

んんん

鯨比

一庵の声

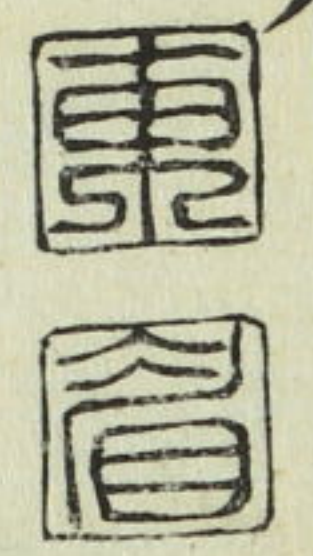


水

水

タシハ

東角



強乃うま

又てく 淋し

稲妻小



北風の

そ、返り

一の夢

野

一六五



月夜と暮れゆく

ききしりしり

梅徑



三十七

因

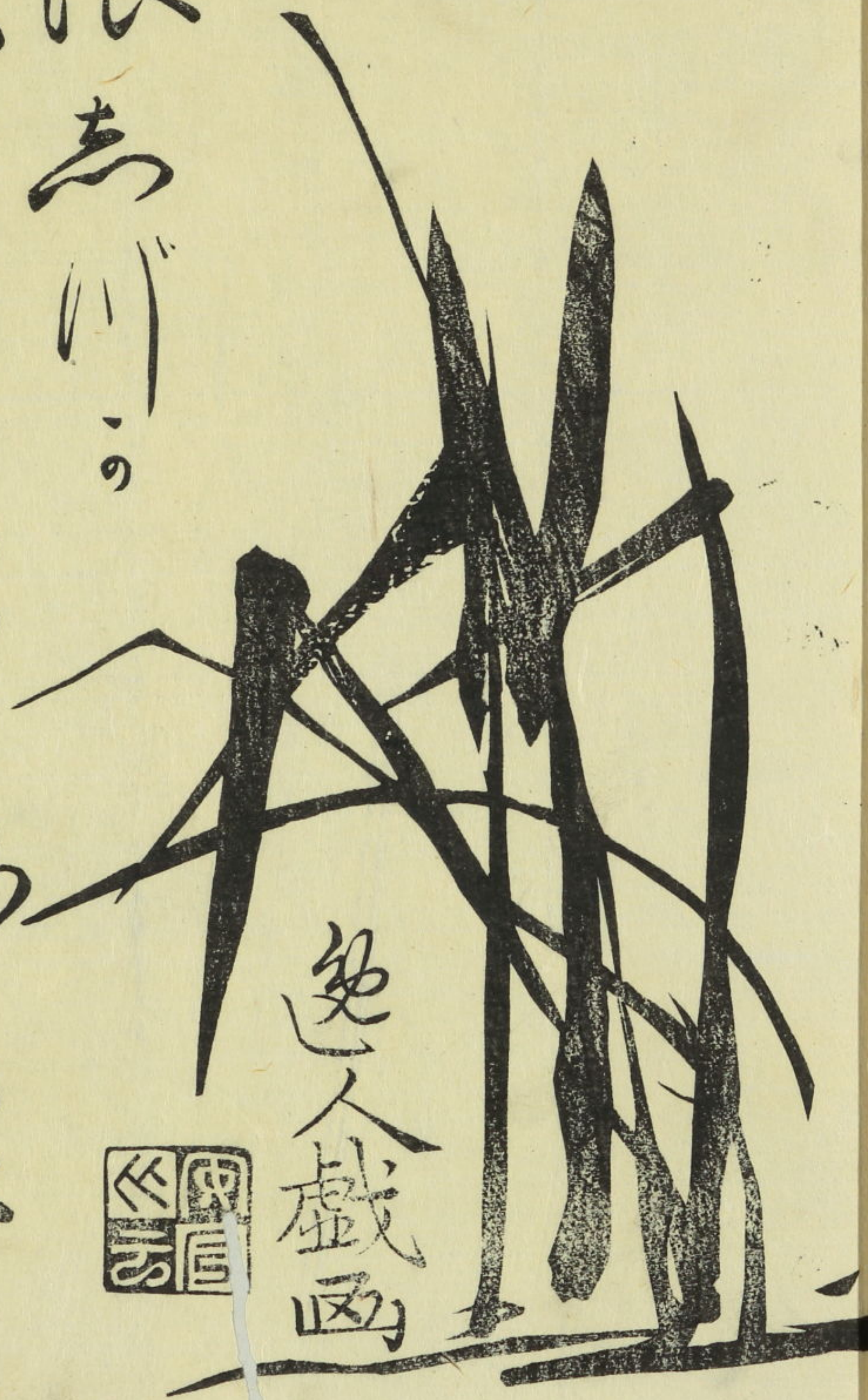
月夜と暮れゆく

ききしりしり

大坂田舎儀



浪高川の
 中井流る
 鳥声
 松花堂



逸人戯画

二九

王



須之浦

えりし

出の

歌六





名月の法華

あやめ

あやめ

伊勢

左酒



一ノ子
きりぬ
とーの
あもれ

まて

法

ふかめ

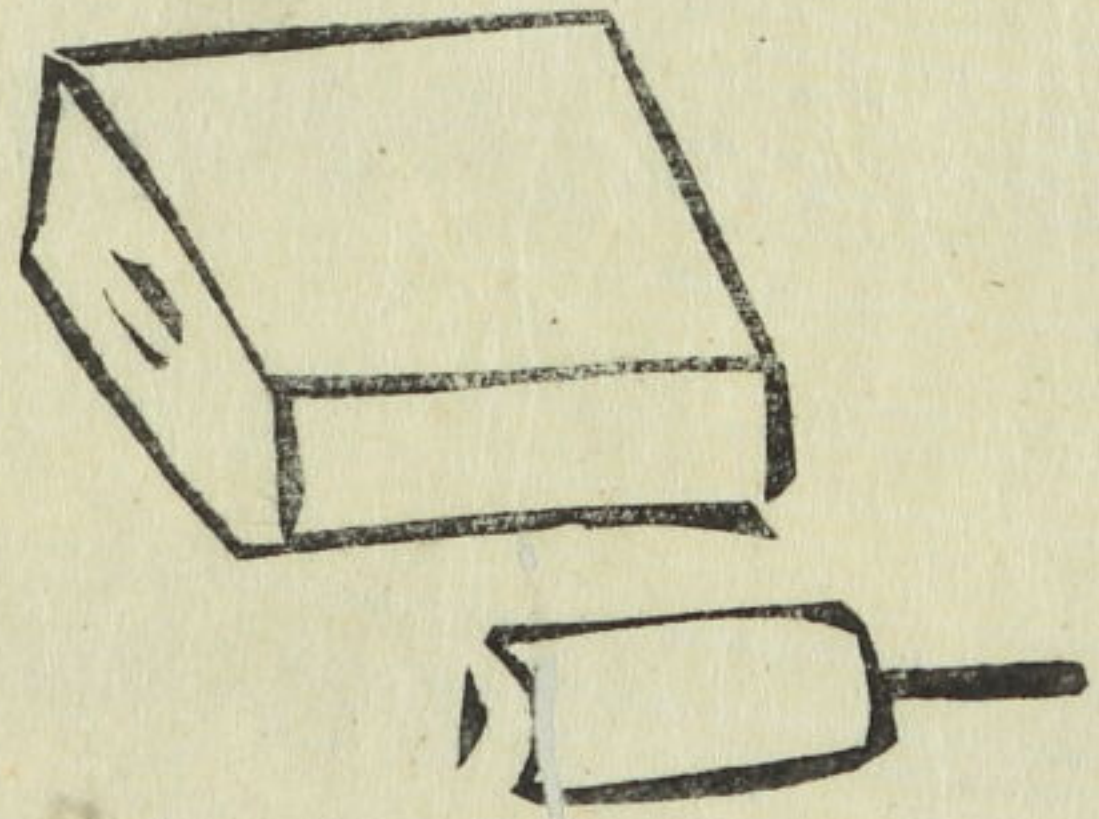


錦吹舟

巻と

唐紙庭

笑波



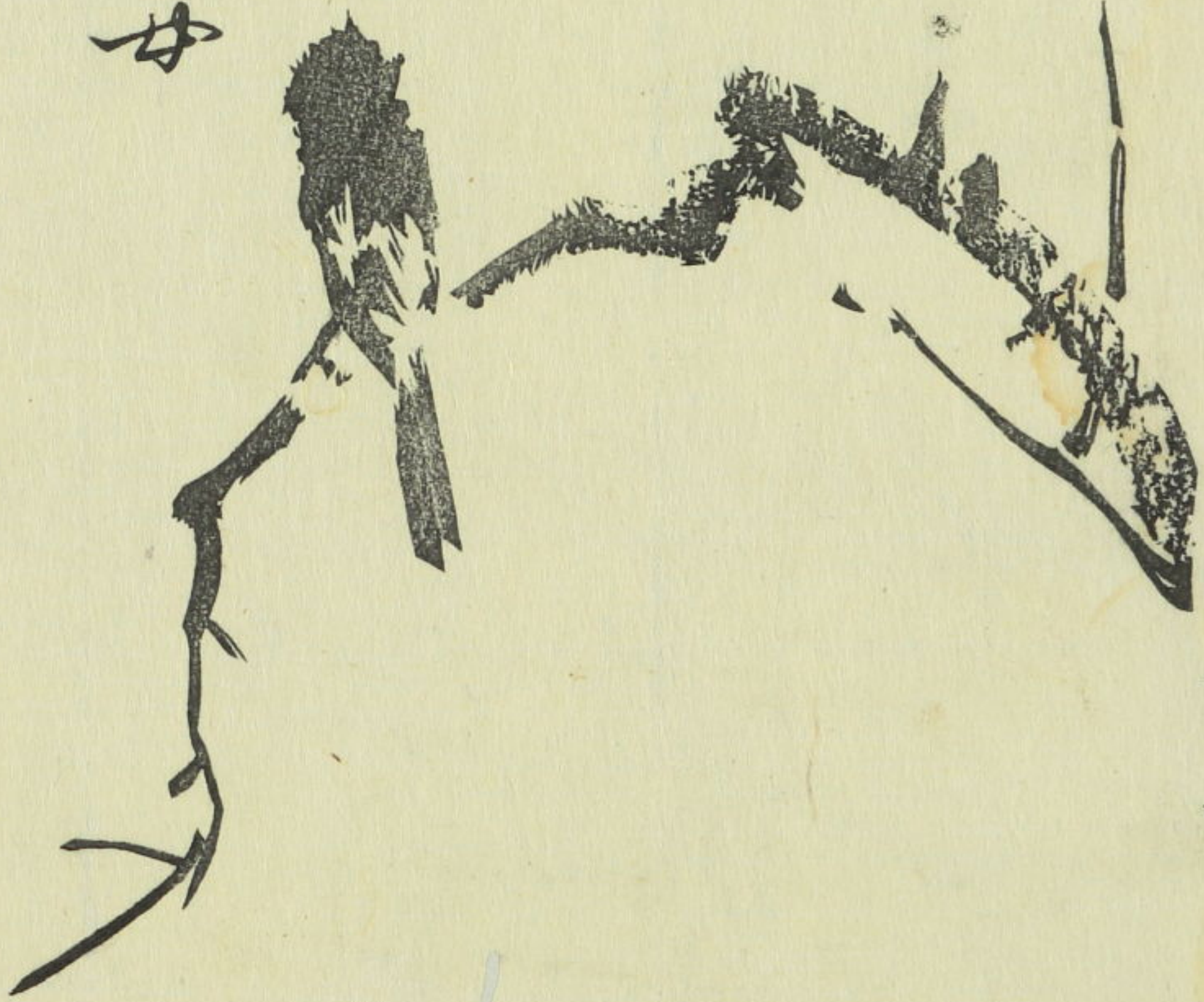
あさむし

花の志

音

大御

笑為甘



二ノ十

山

しよ

家根のう

科 於 紀

可有



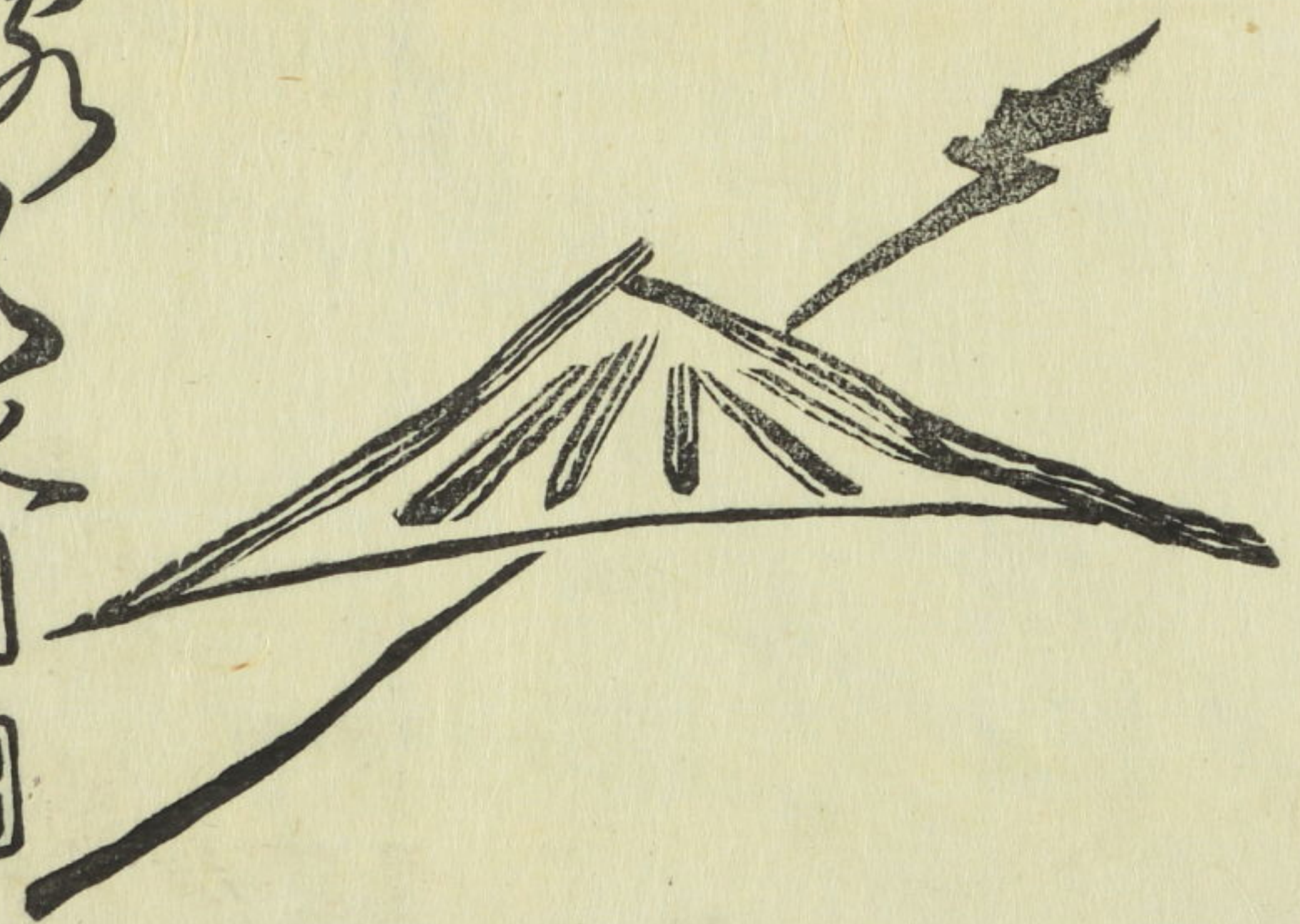
月

う

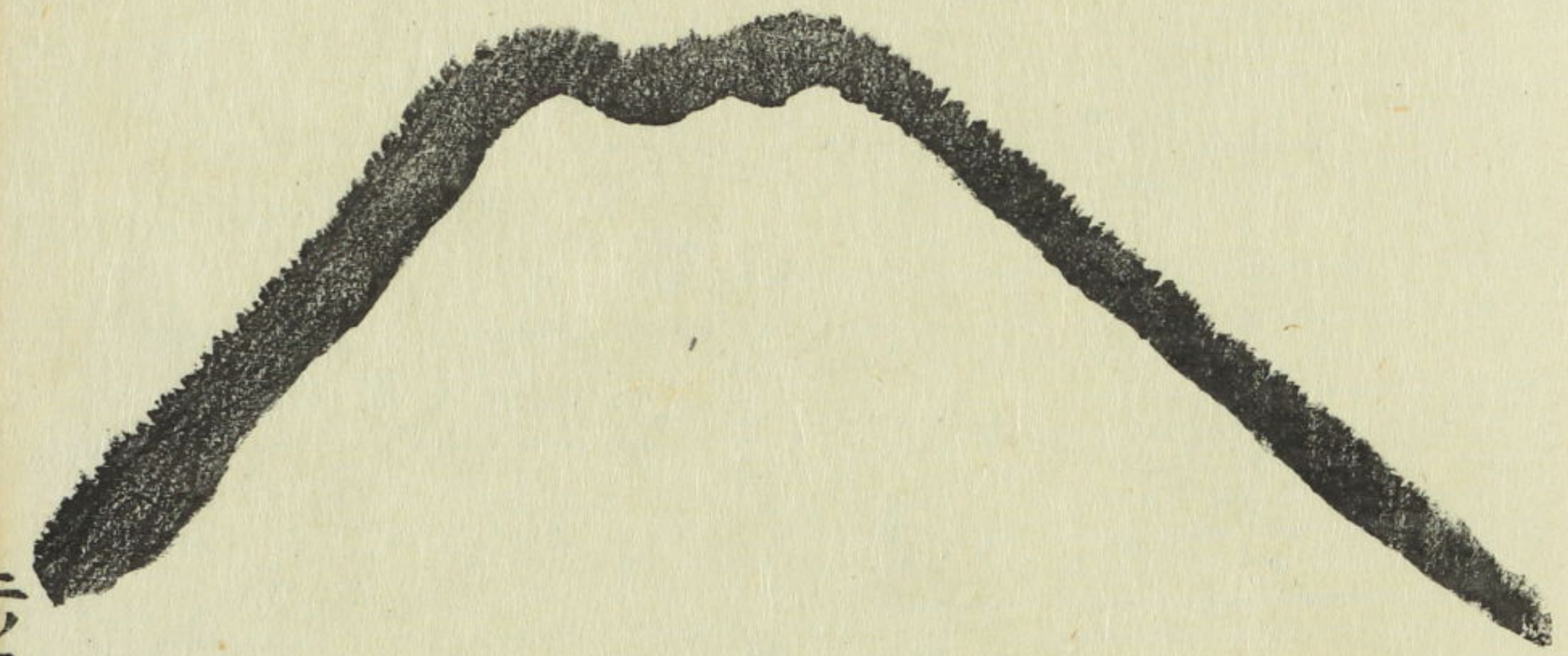
乃

乃

如



見字了
影
天の川
南岳



1100

一片の

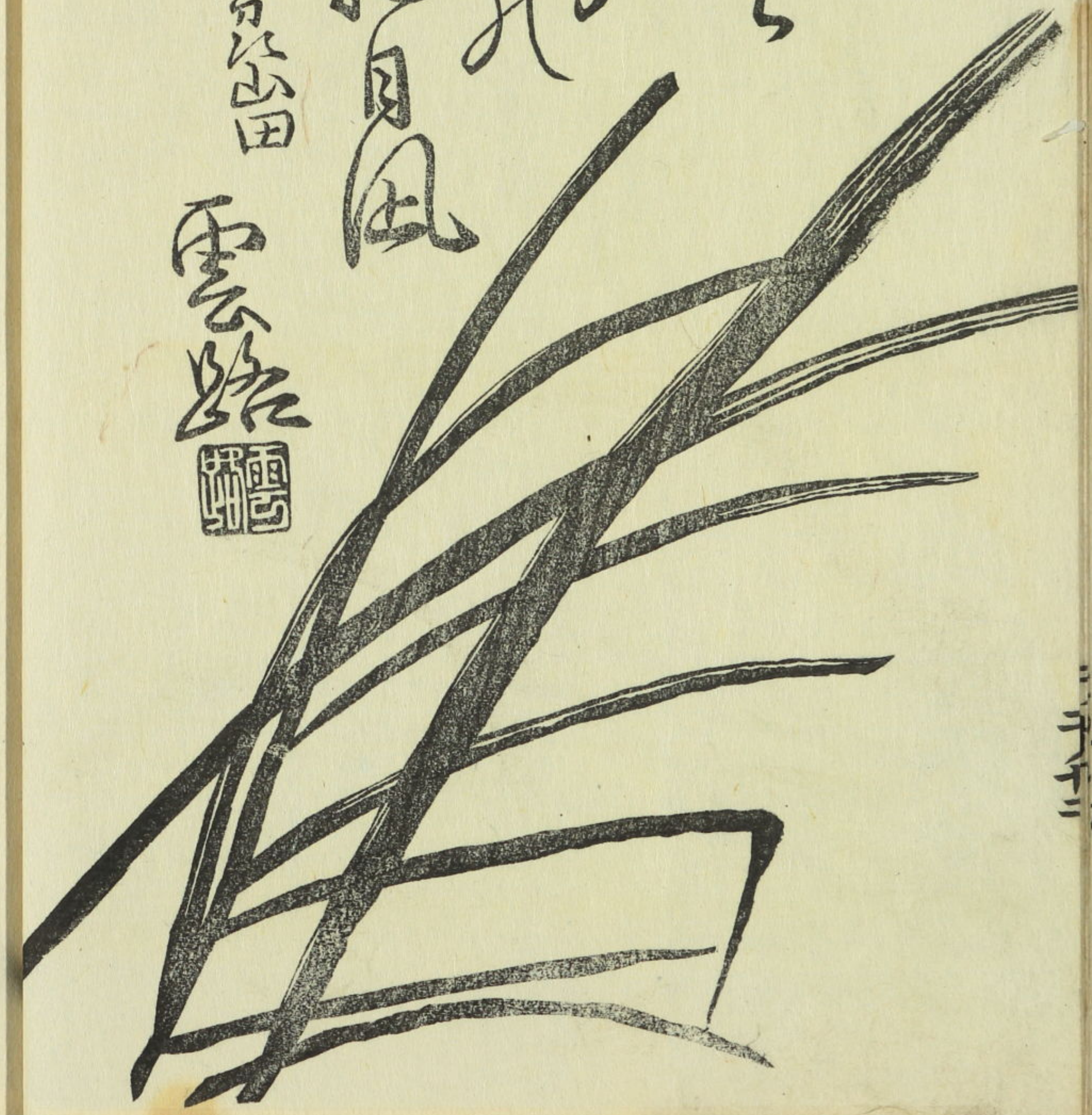
中

中

乾目風

三石山田

雲路
印



1100

涼中や

秋の

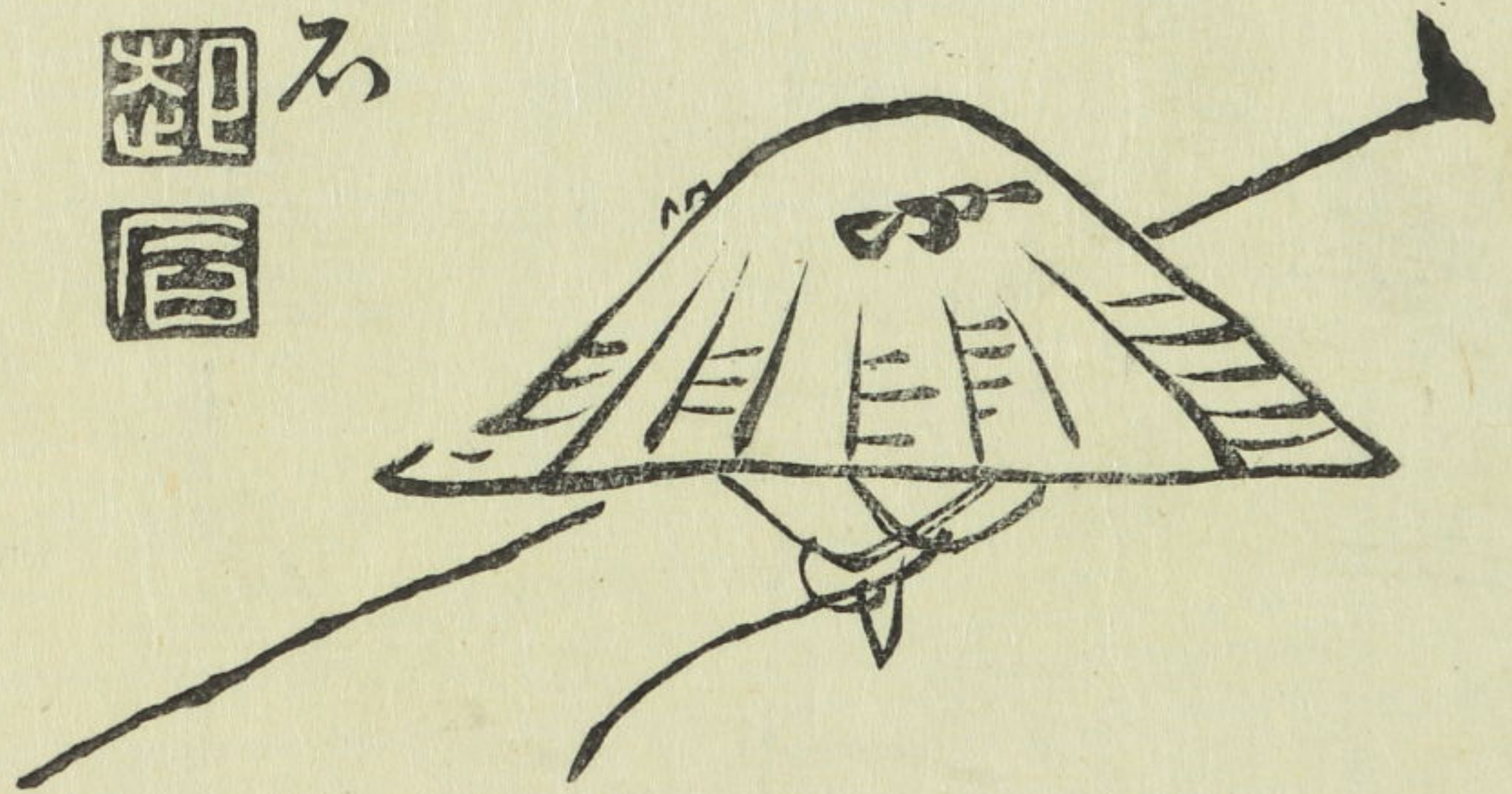
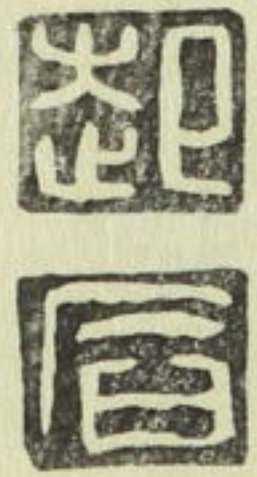
阿ふらむ

あふらむ

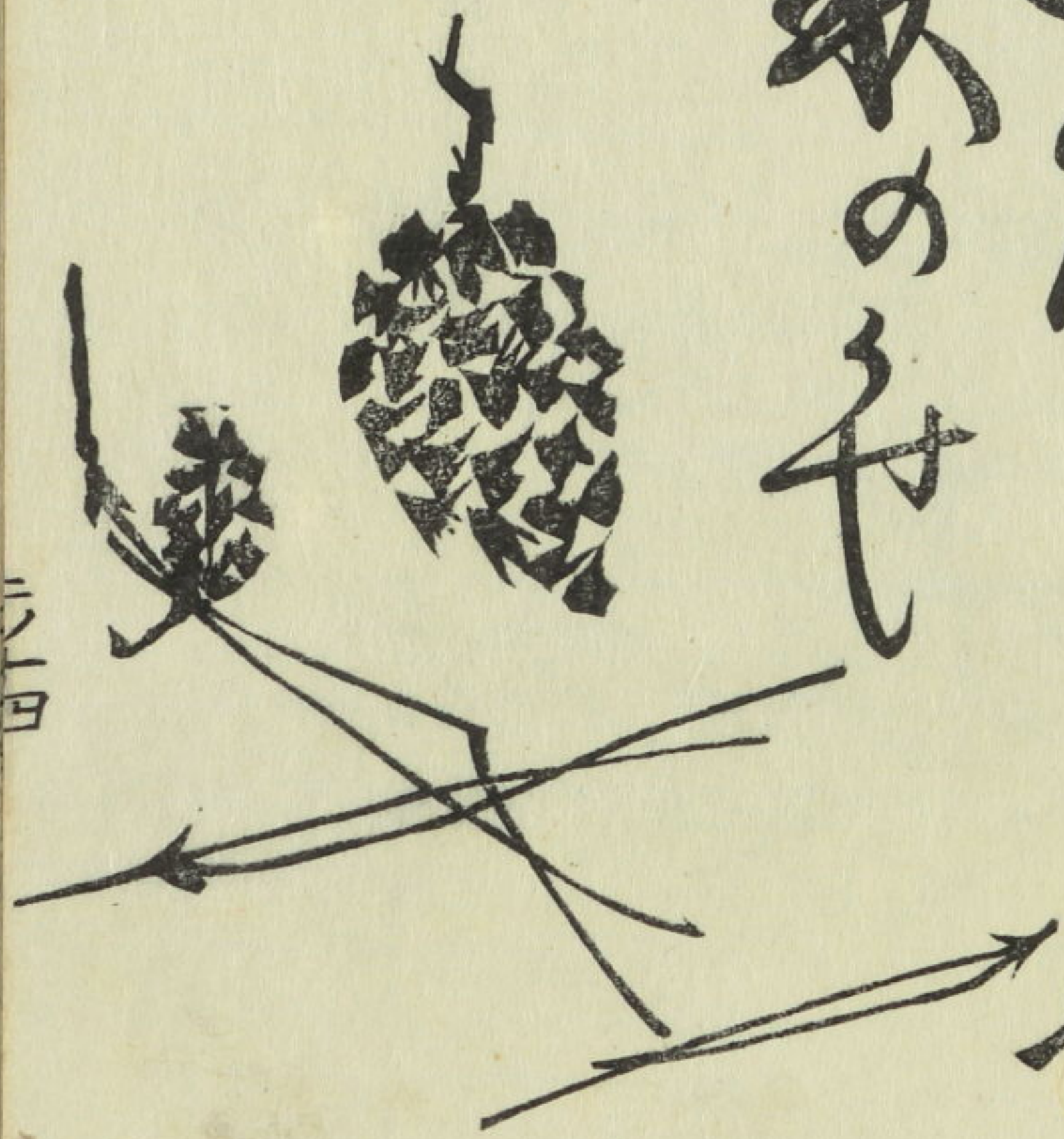
あふらむ

あふらむ

記石



おんうらな秋の
あふらむ
あふらむ
あふらむ
あふらむ





十二
月
の
入
り

初
風
鼓

神風館
十二月
初風鼓

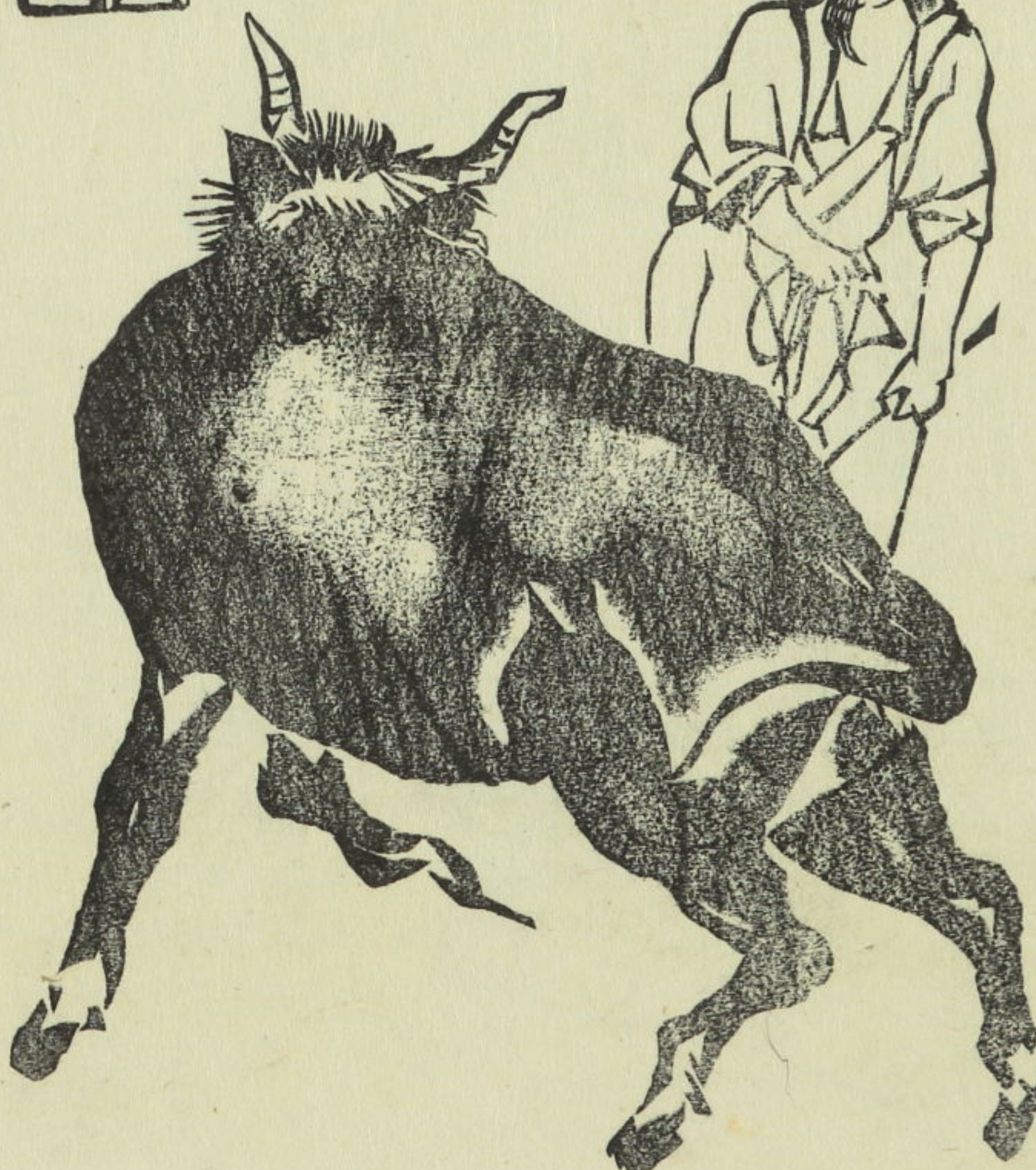
日の
入
れ

山
の
入
り

九月
の
入
り

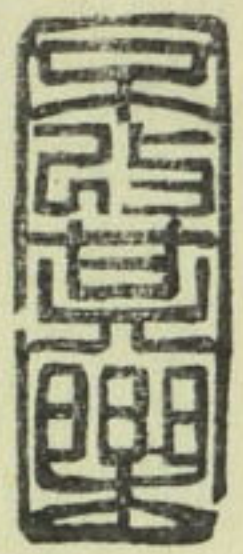
素
律

素律
素律



舟
の
入
り

舟の入り



秋之丸

隣

門

婦

子那



湖

一室



二十

夕乃

廿七

夕乃

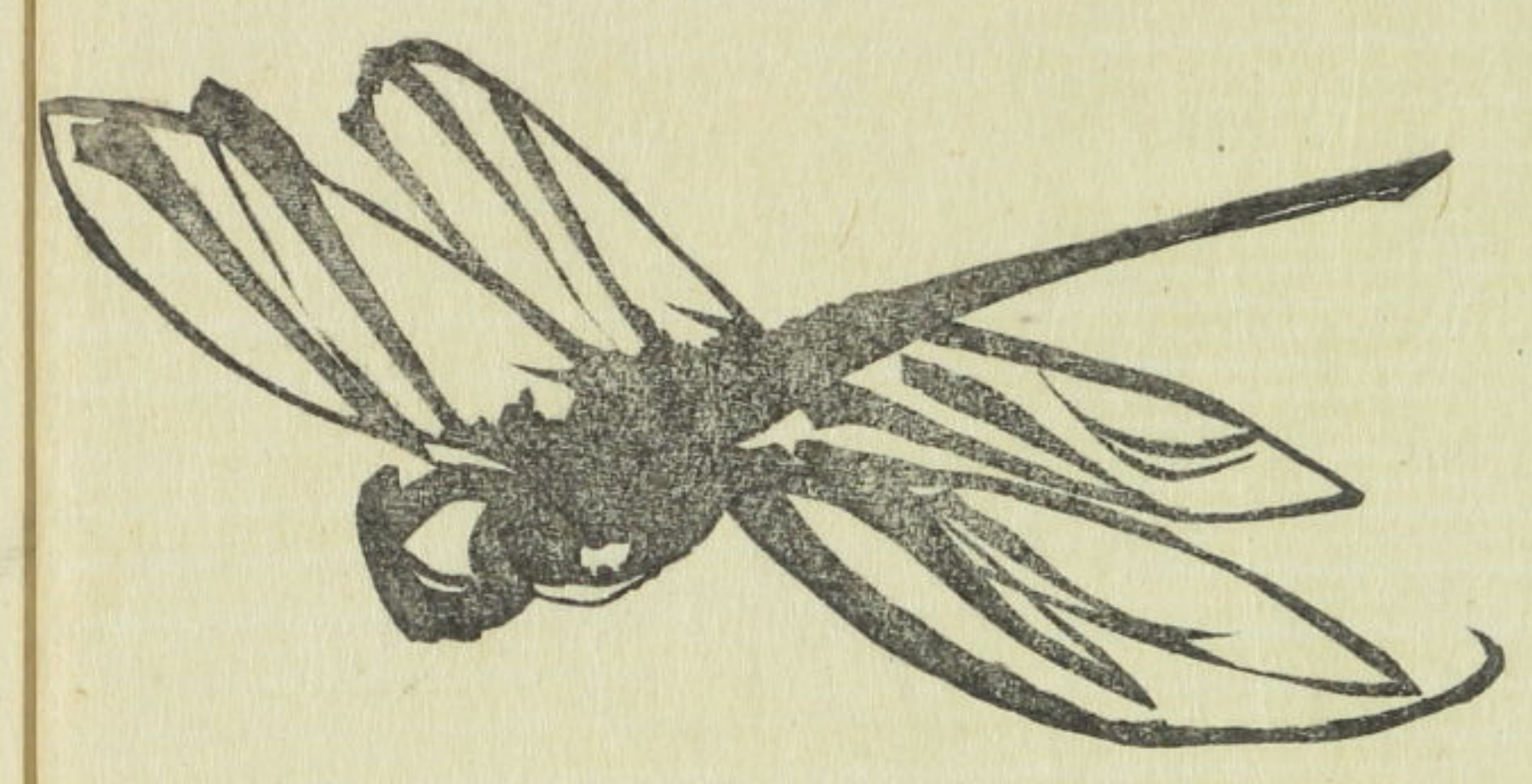
夕乃

夕乃



一 痛の

東



花本権

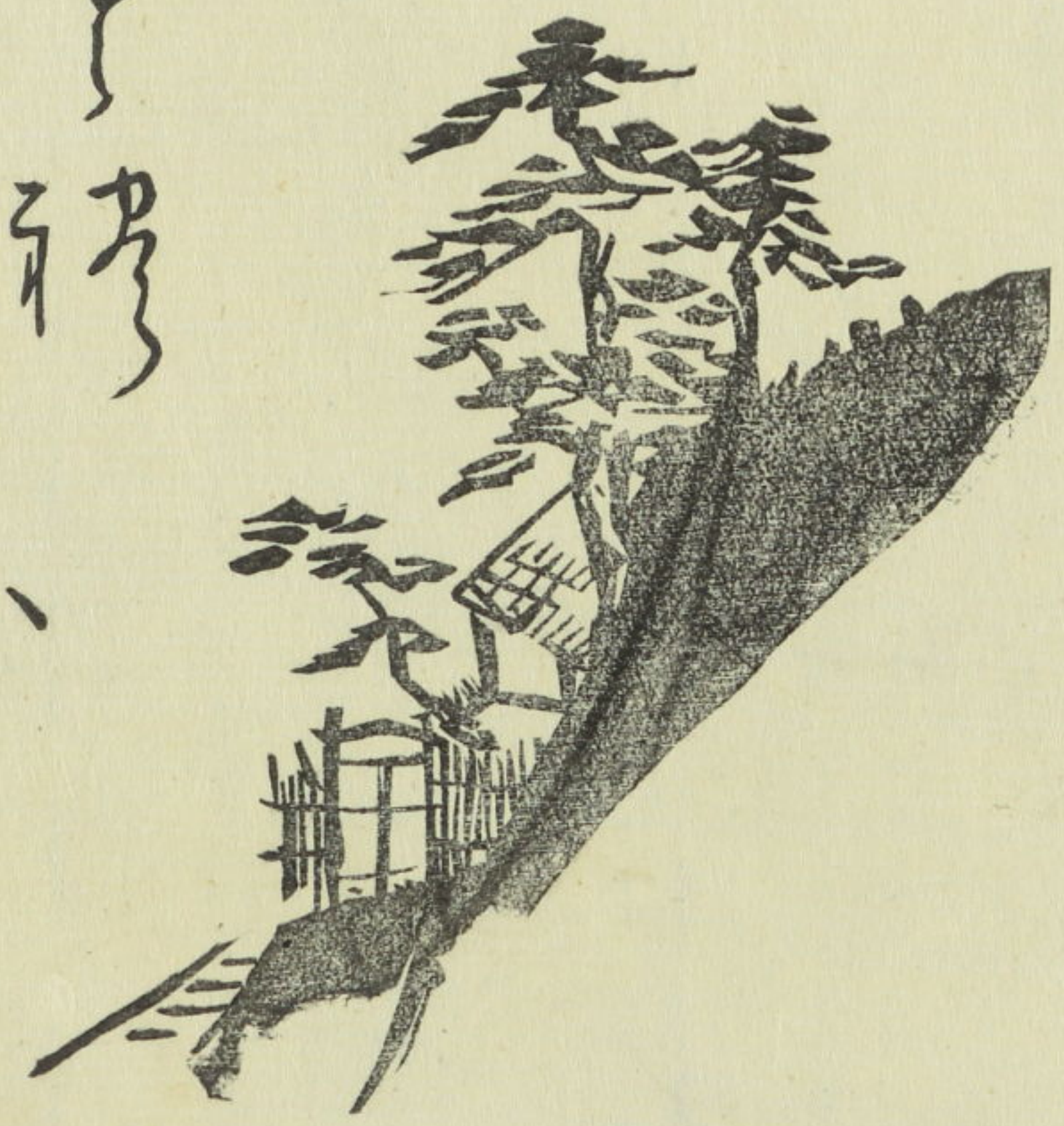
とて

虫

山

山

一



山

山

喜海の

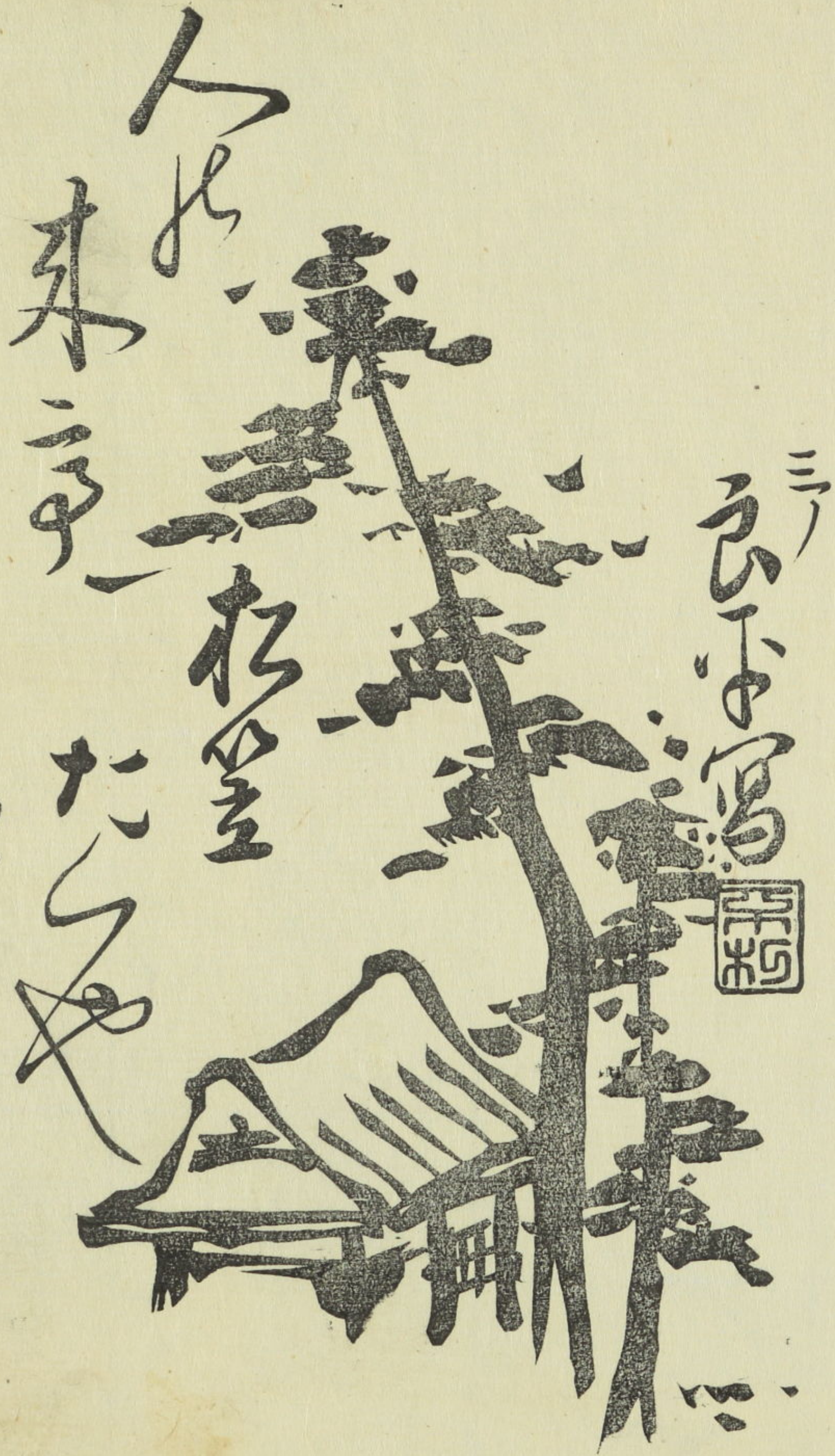
果々之由り也

云々

月

湖东

喜水



喜水

来

人

在

大

度乃何

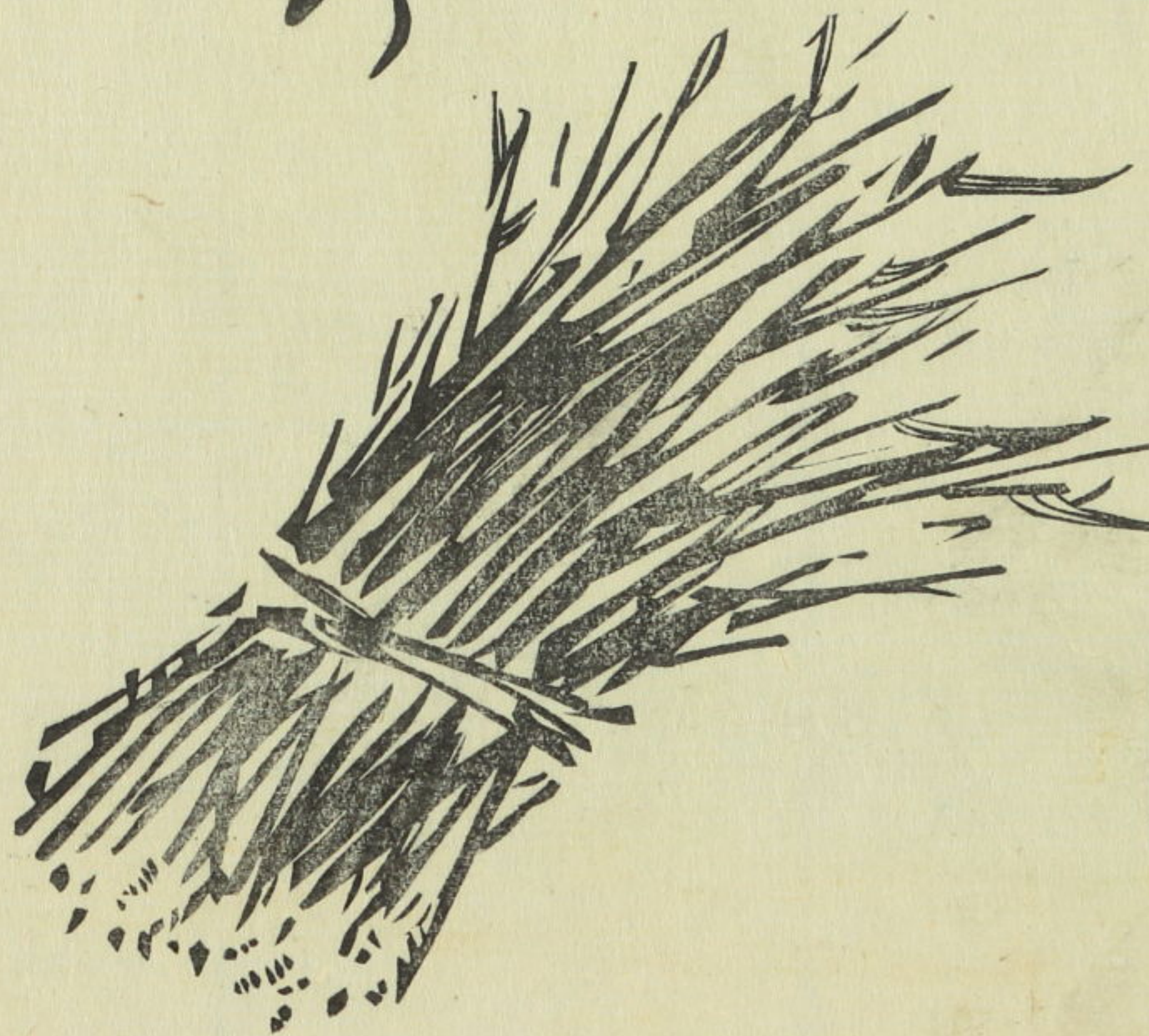
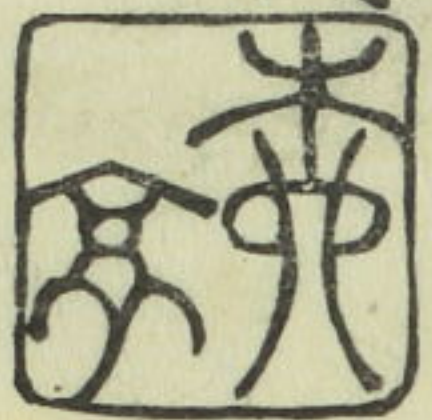
喜水

唐きしに

輝のくひや

初むしる

あ
な
ま
ま



檜州の村

い
あ

ま
の
虫

糸
木
左

垣
根
の
ま



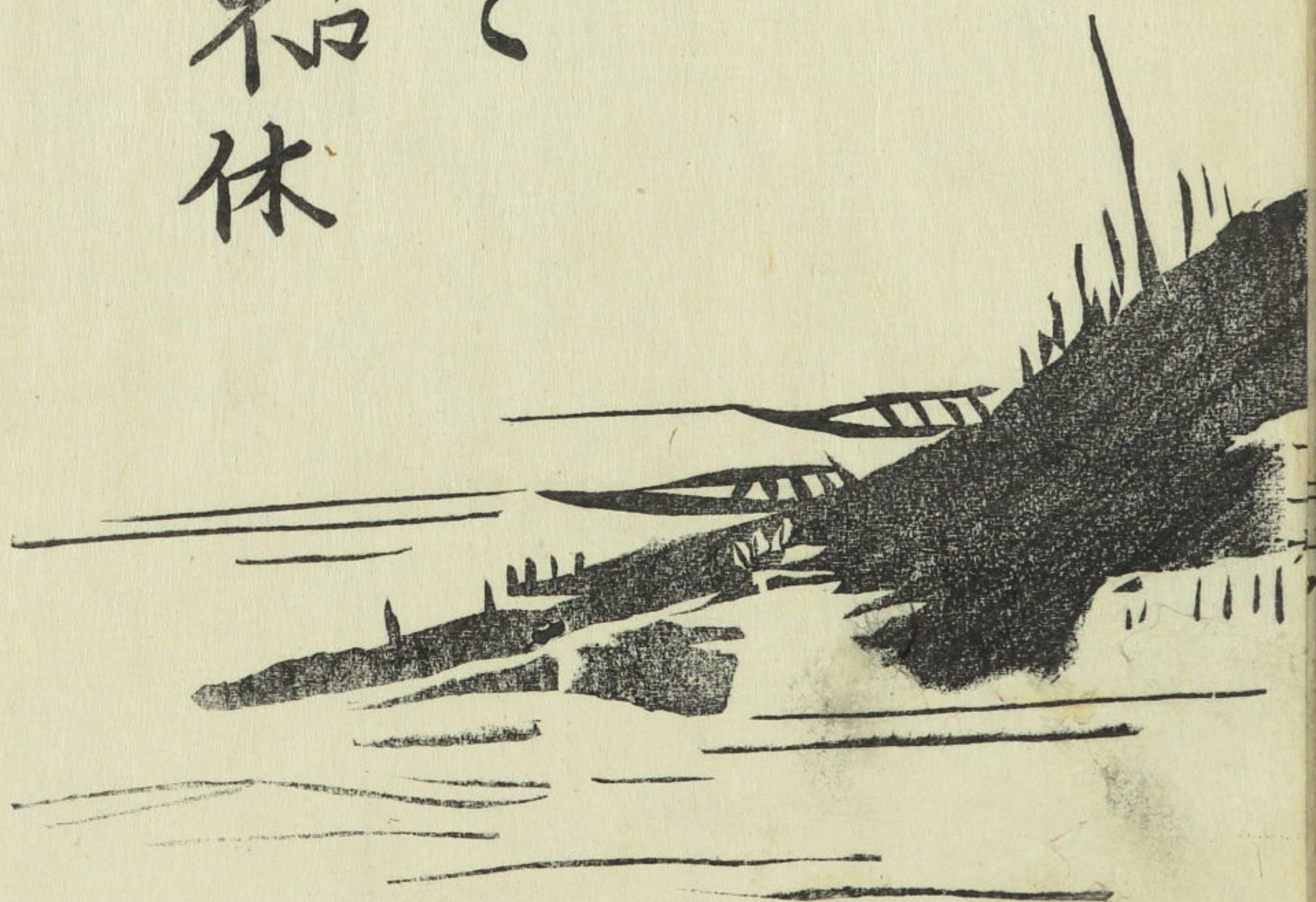
縣以也

多可下

少々々

乾乃重

水
不
休



五
藏
心

名月や誰
の毛

湖東

か
ら
来
の
毛

蓮車

井

祝
ひん

為
見
て
か
飛
存

中
不
極
示
南



湖
東

二



女
佳

あ
さ
あ
く

あ
ま
あ
り

き
地
り

ち
り
お
ま
ふ

括
め
ろ
ろ
里



名月の 淇石

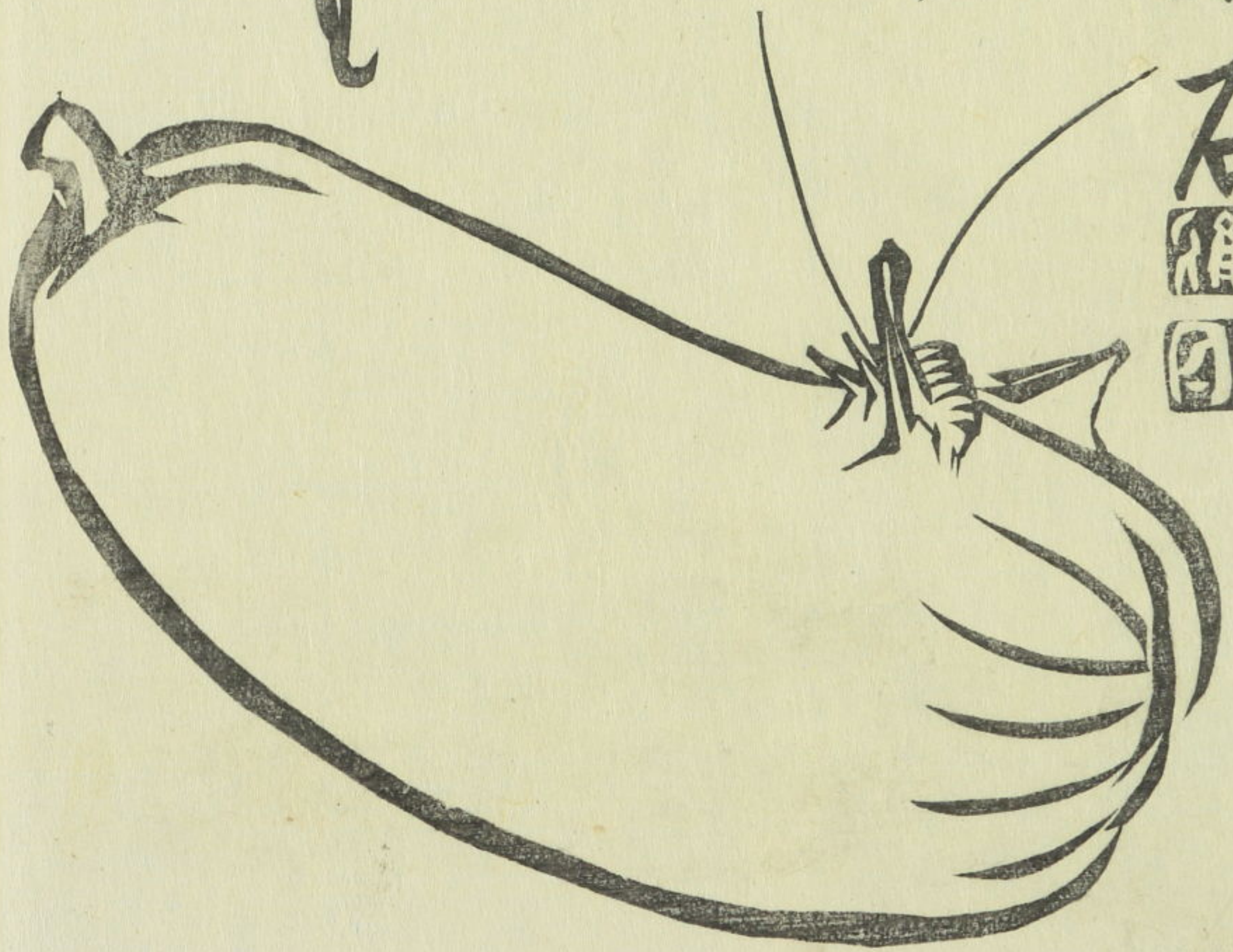


夕月より

夕月

夕月

夕月



二九

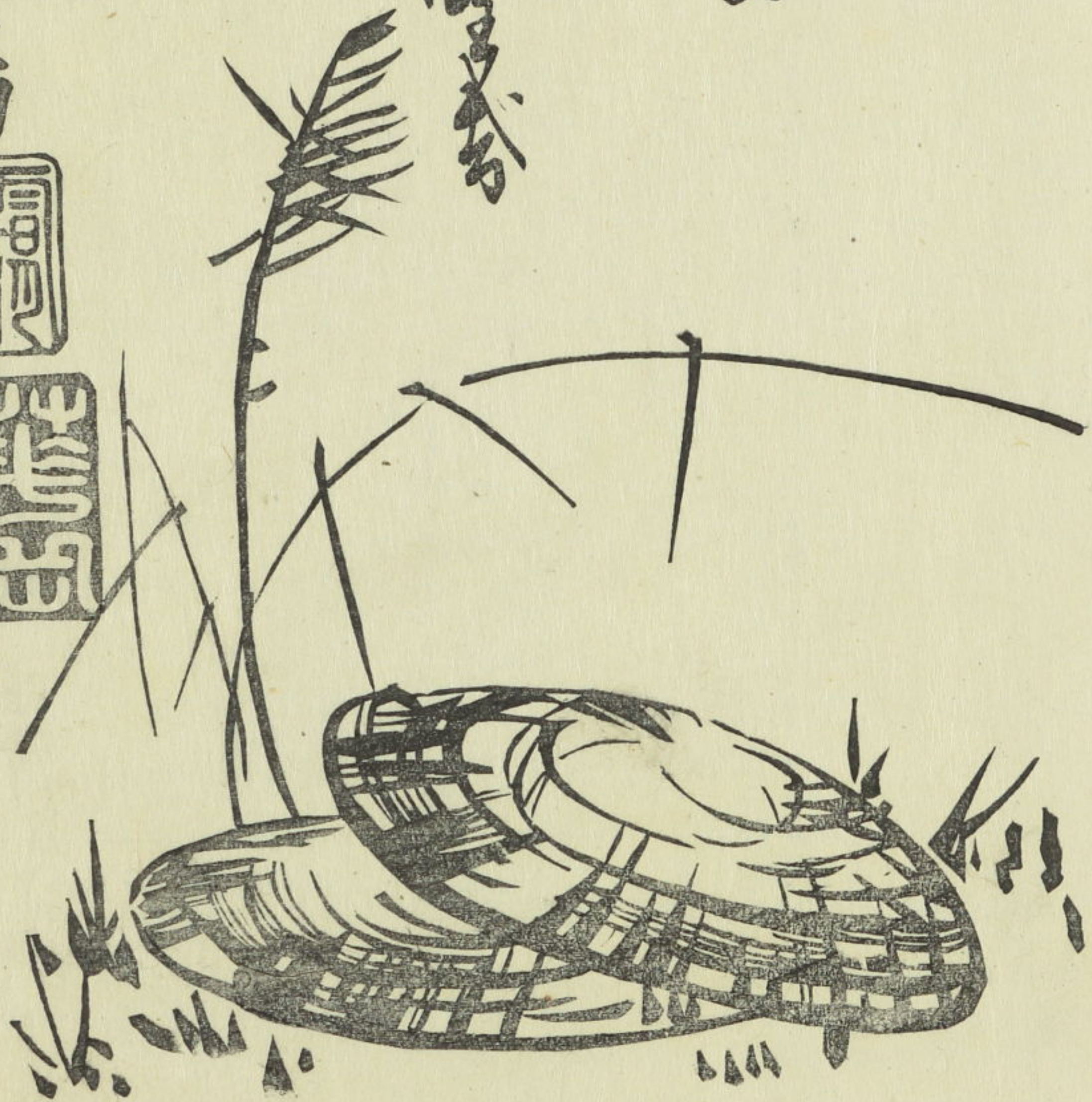
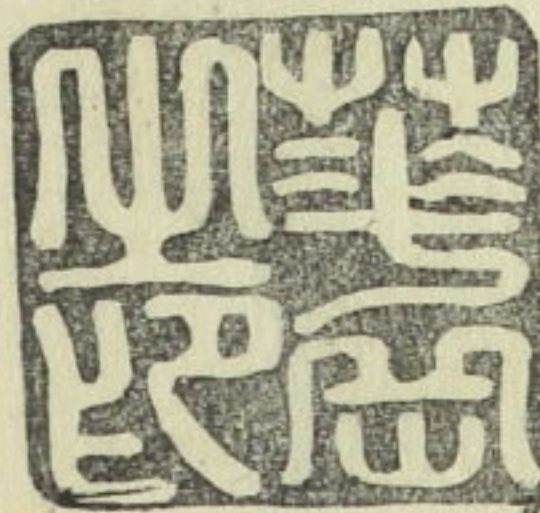
露乃竹

露置

花野

浪華

花岳



二九

白の玉

こころ

ま

下総

下総

白

川



花権

秘

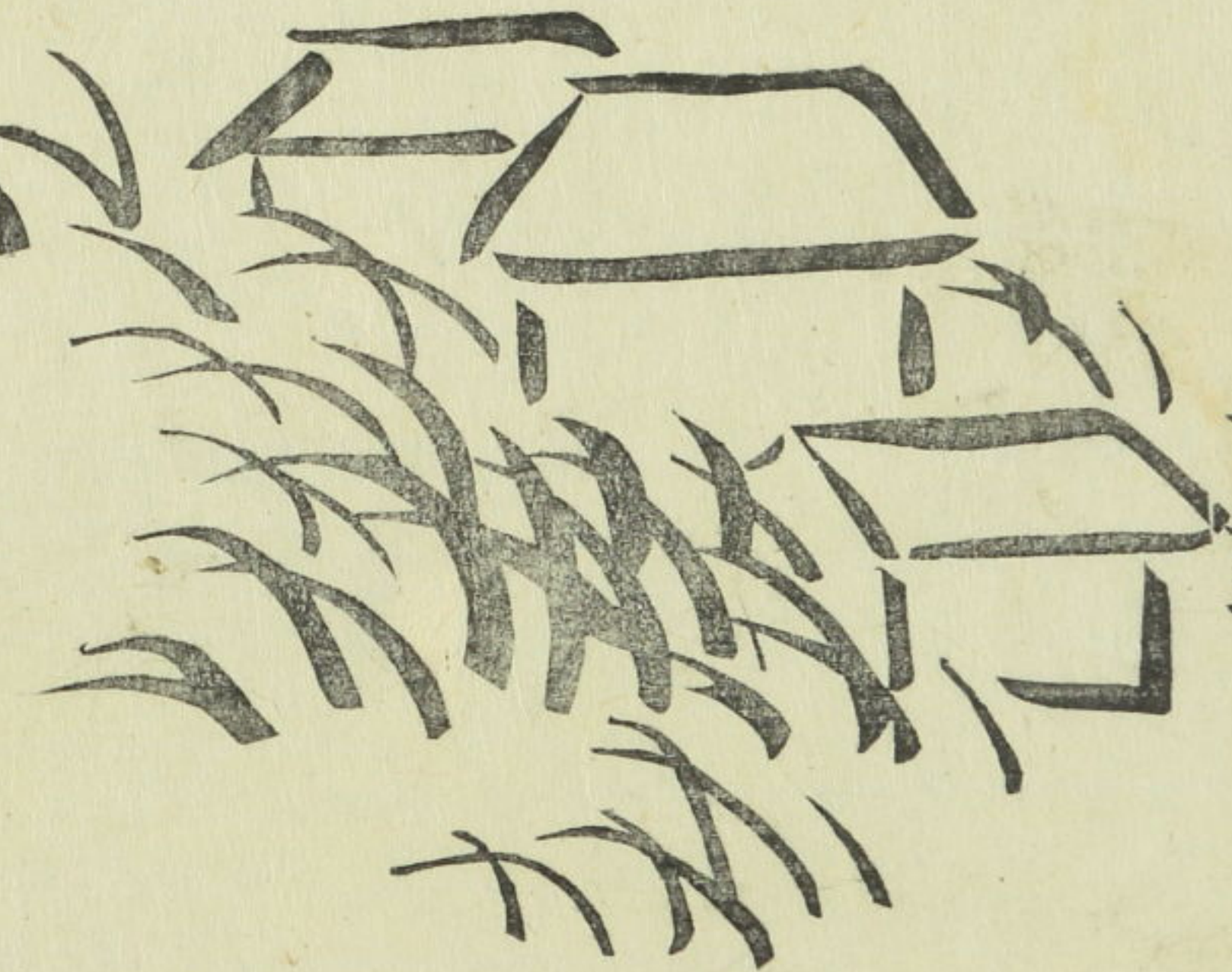
夕

定

夕

水

和交



以
秋也

斗
斗

帝
花



流
冬
也



彌
子也

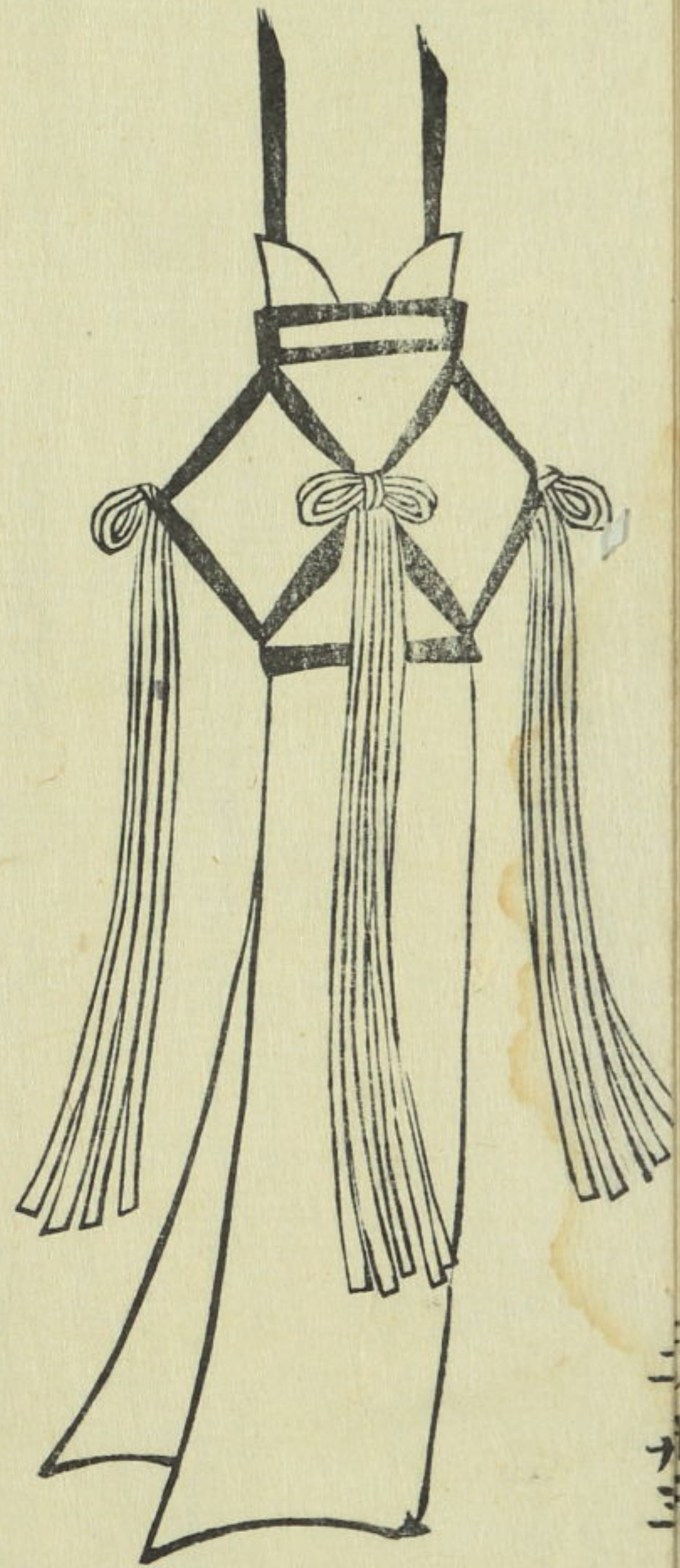
暮
れ
秋
日
を
は

明
志
了
秋

甚
乃
當
下
郡
上
島
養
法

西
誓
寺
住

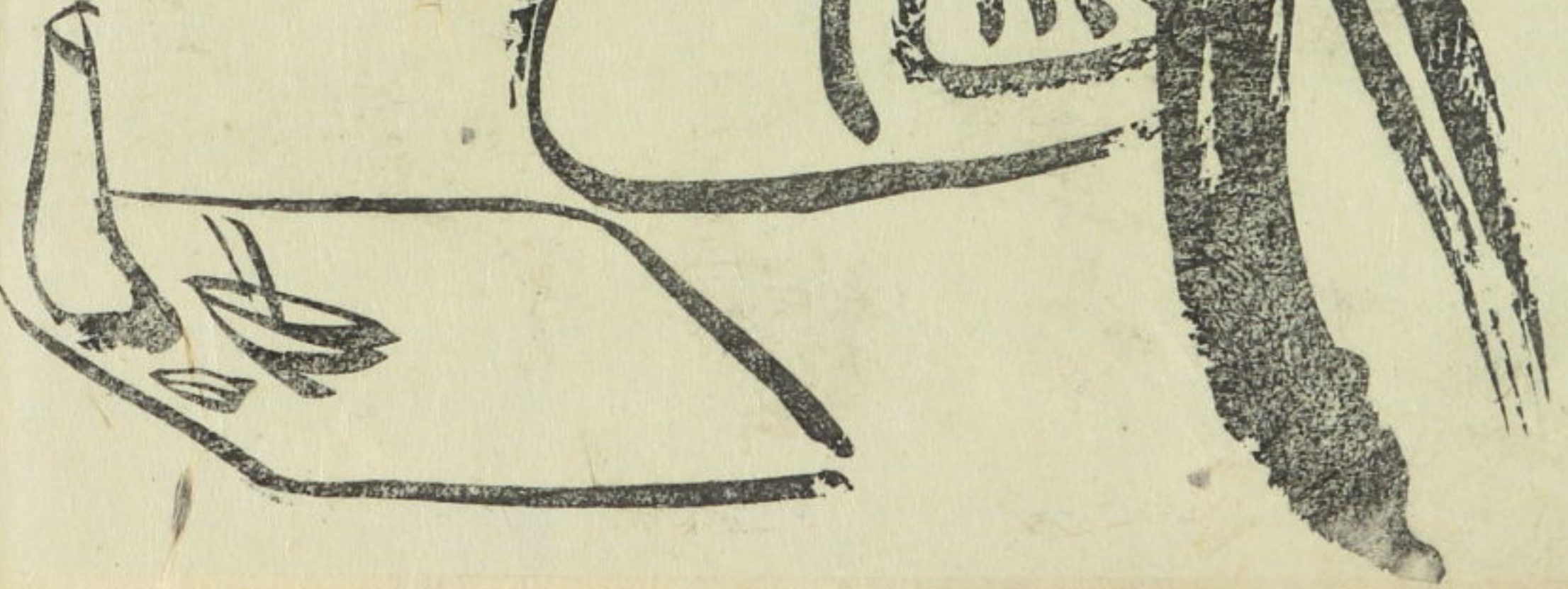
魚
目
山



閑
閑
閑

大
盆
の
と
れ
た

閑
閑



く
乃
福
の

見
さ
そ

こ
も
の

あ
の

さ
の

水
の
石
の
眼



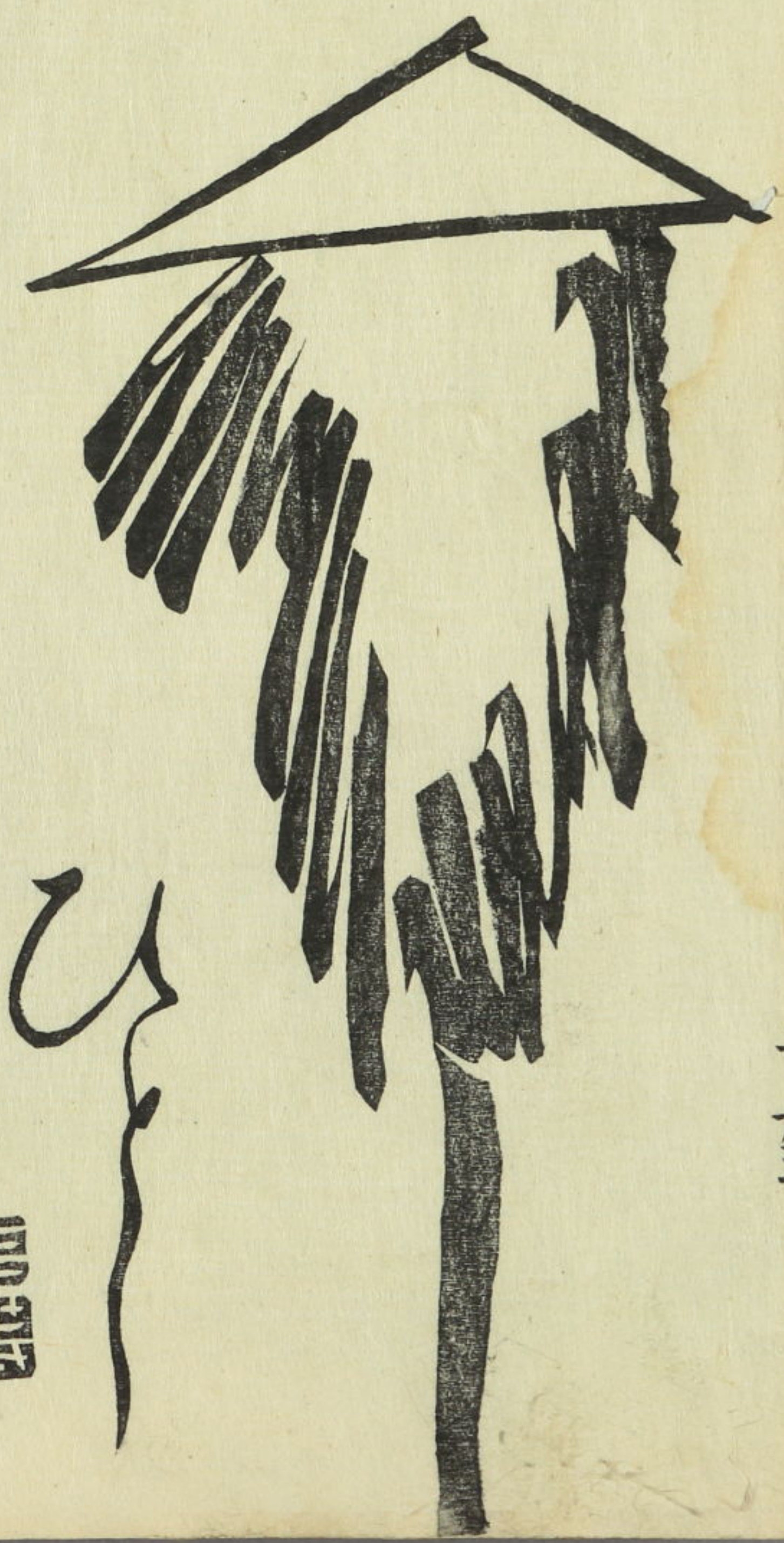
二
七
五

二
七
五

本座の
句
月
文子
松に
業
松



也
二
船
の
と



松

此松の庵亦佳也

鳴鶴軒



海山堂

多神と

か
て
た
り
た
り
た
り
た
り



魚
野
山
堂

乃 枯

ス奇々丸見もや聖

窓 夕暮るに

二七



屯 亥坊



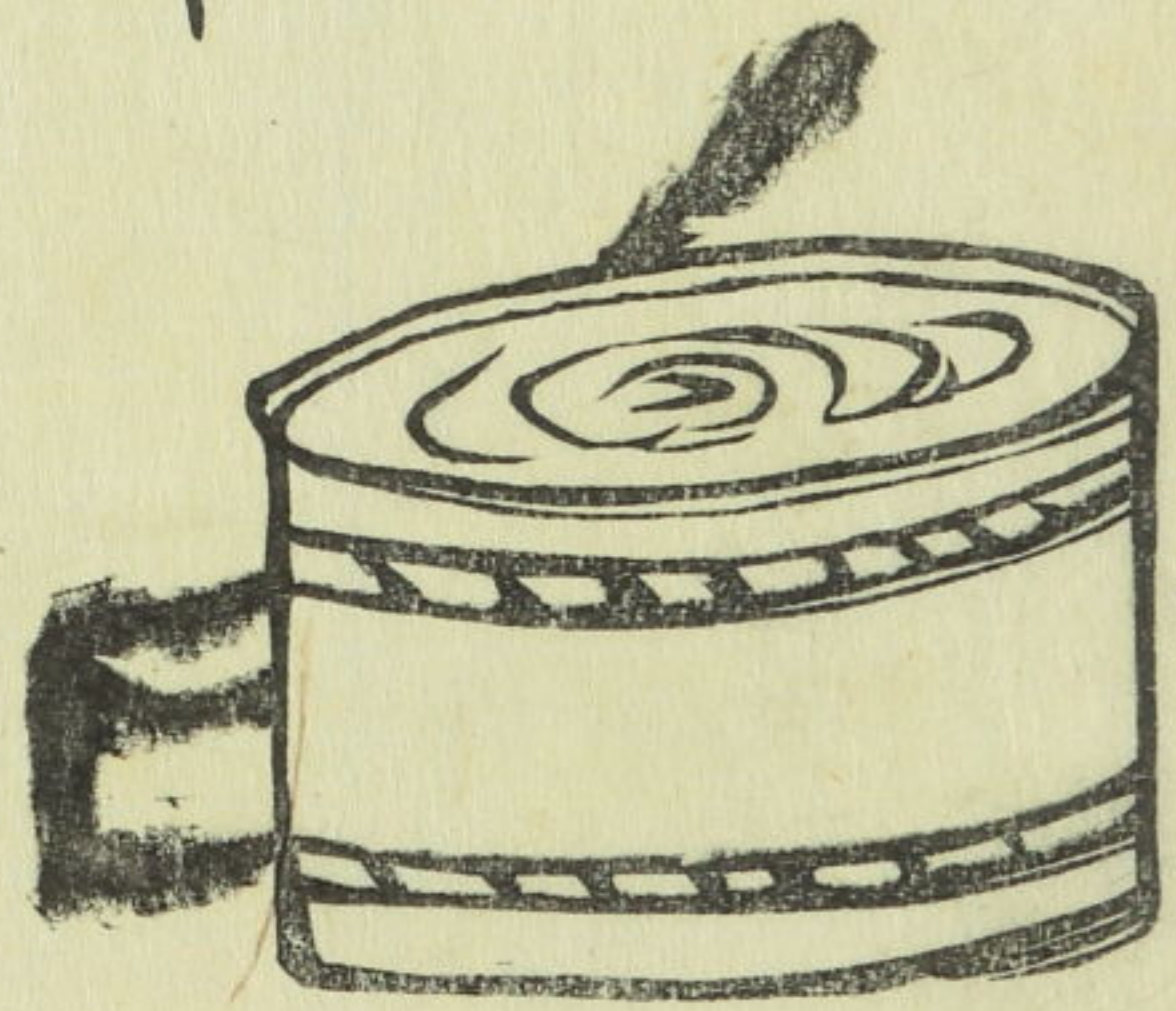
打の丸

中階

花の丸

ミノイヅミ

ル



二七

能友兄毛亦茂
志不加至家利

中

二

二七九

何

白秋如

何

何

何

何

何



何

鳥

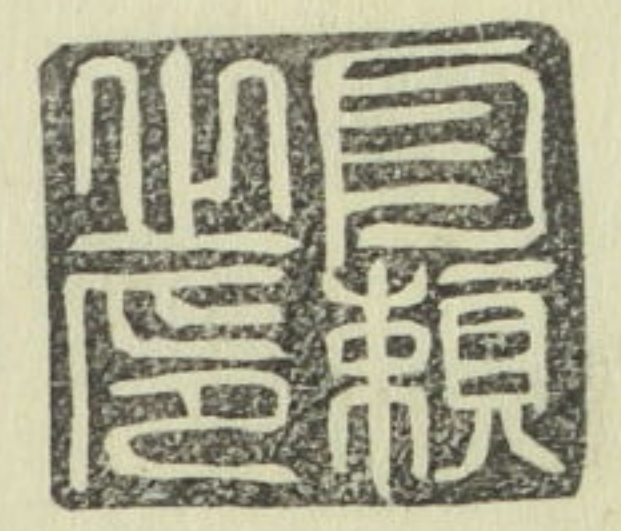
くねり

木の葉

偏日

浪華

自筆



くねり

ひねり

木の葉

くねり



二



志の舞



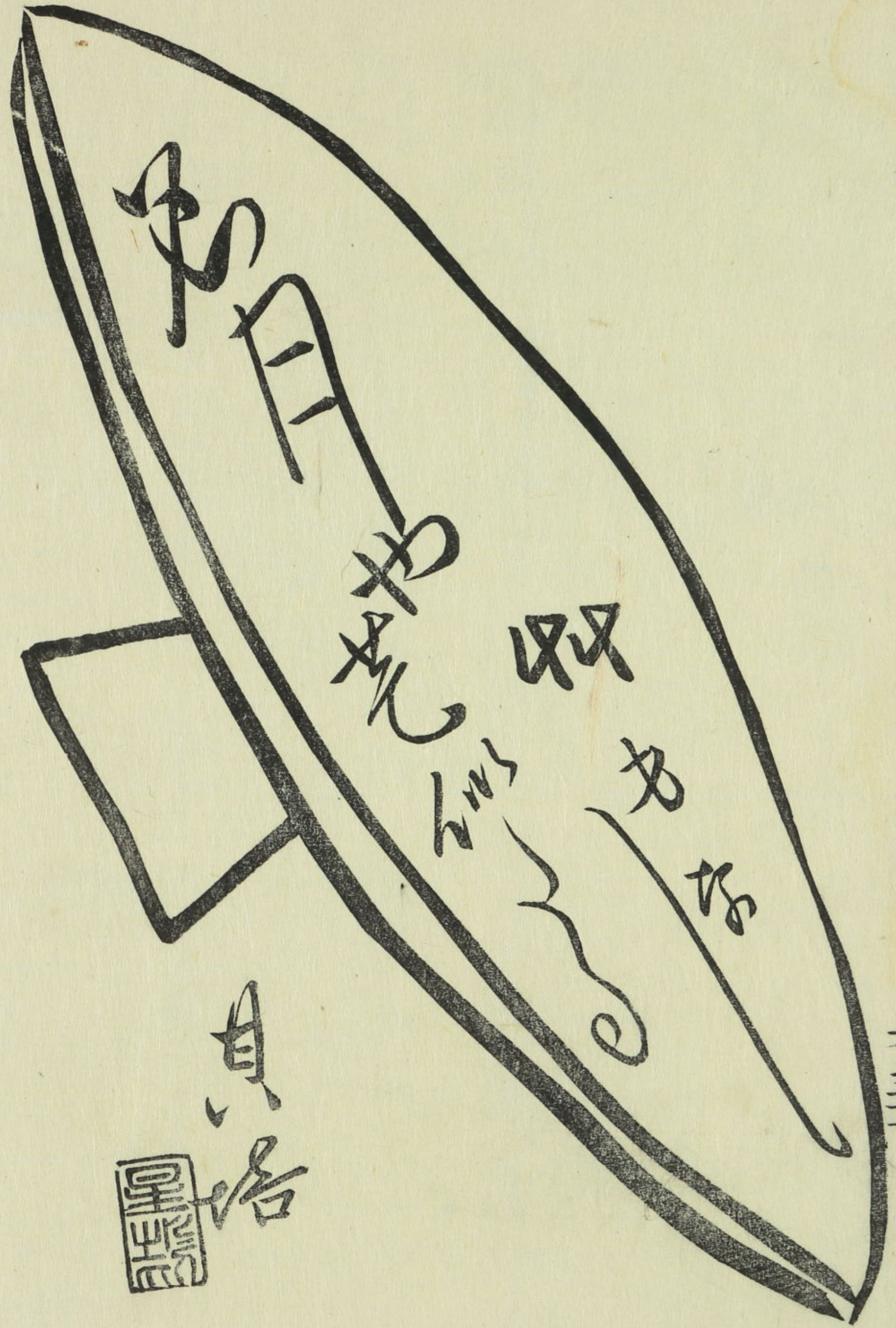
目のは
あはれ

湖東日野
竹六志
四四

平安
洗物画巻

花
御
もの

夕
西
路
た
ん
と
毛
い
ま
原



貞塔

山子柳子

秋の文

平安

梅鉢



洗掃
園

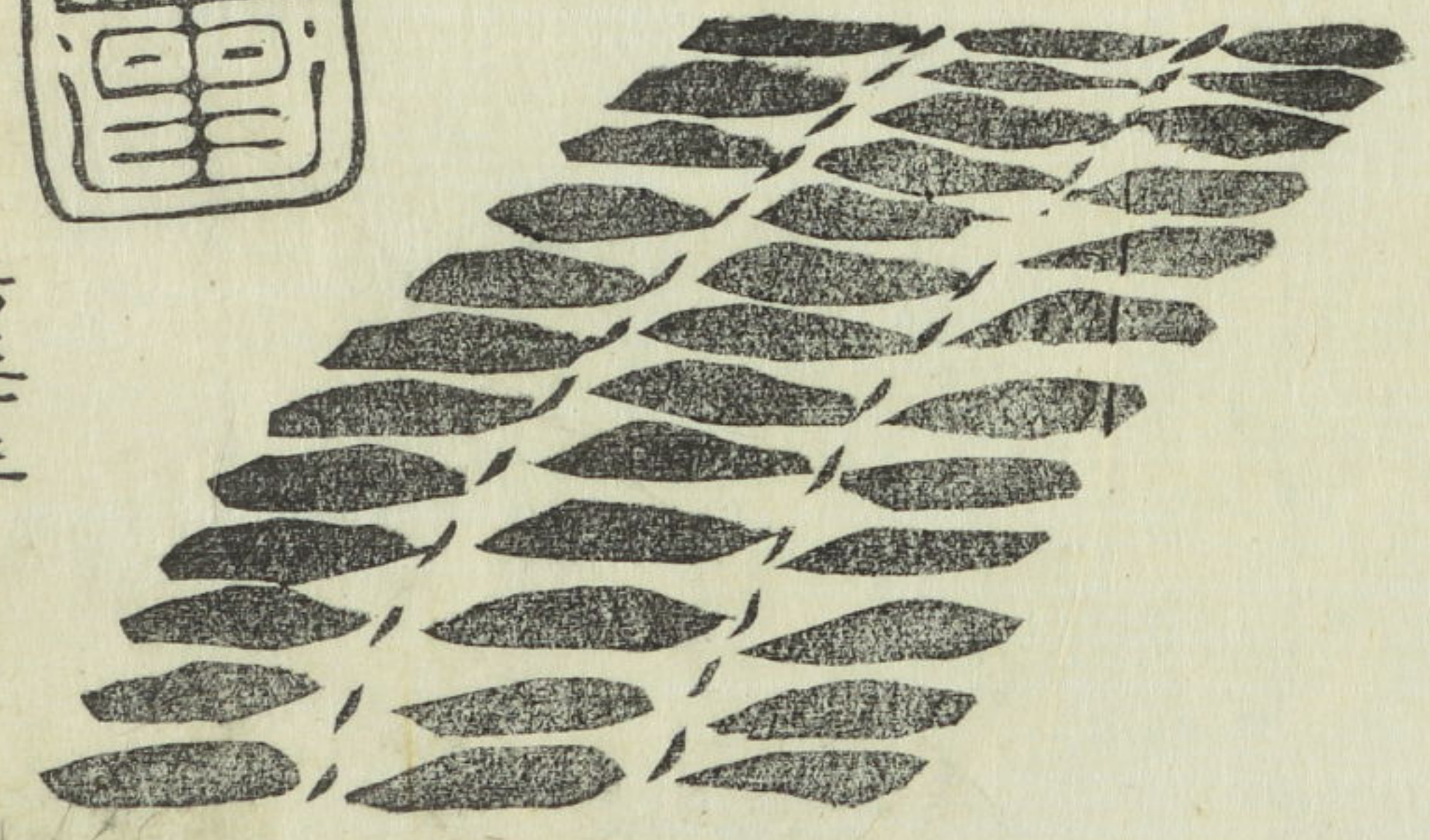
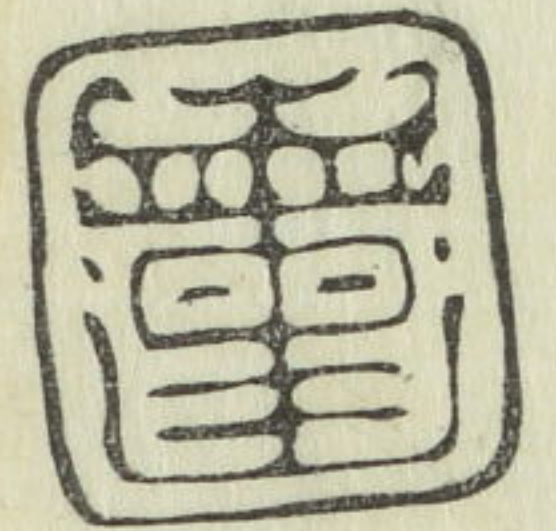
あしはれ

子孫

久し

咲

南



二三三

洛女名系

SOI 15 15

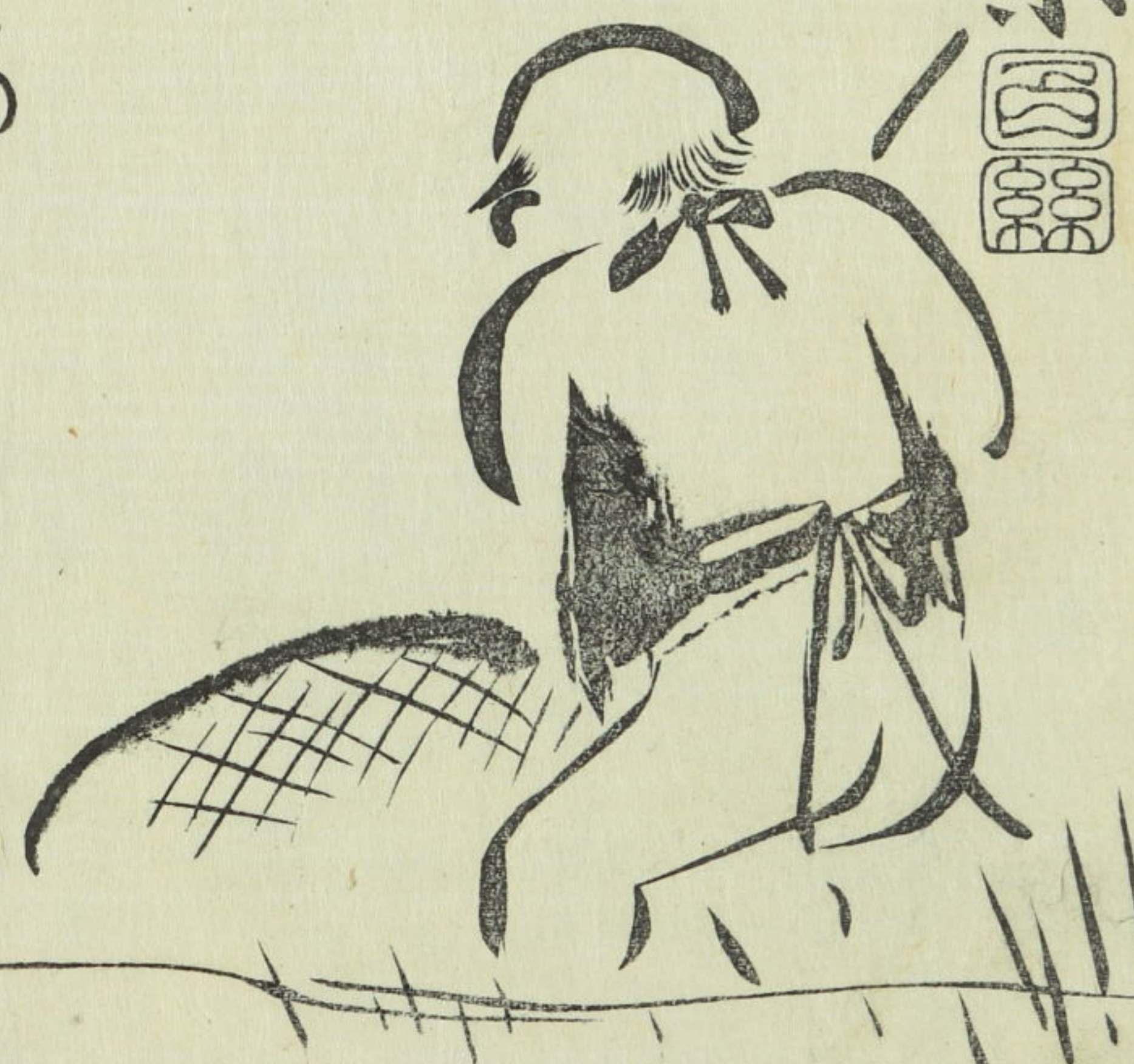
秋夜

有る

るる

秋

の風



Red square seal impression.

名月

池の端

人

風

Red circular seal impression.



Small vertical text on the left edge of the page.

芳烟

可也

交

夜

明
多
葉

煙
角



酒
月
と
れ

酒
月
と
れ



十六也
真
早
澤

生れ花

号一 路 気

月乃 男山

昆 明



十二

瑞馬



心 花 月 夜

一 夜 び ち り け

た ち

ま ち



三十一

紅梅をこ

波々 乾目の

さし

東女



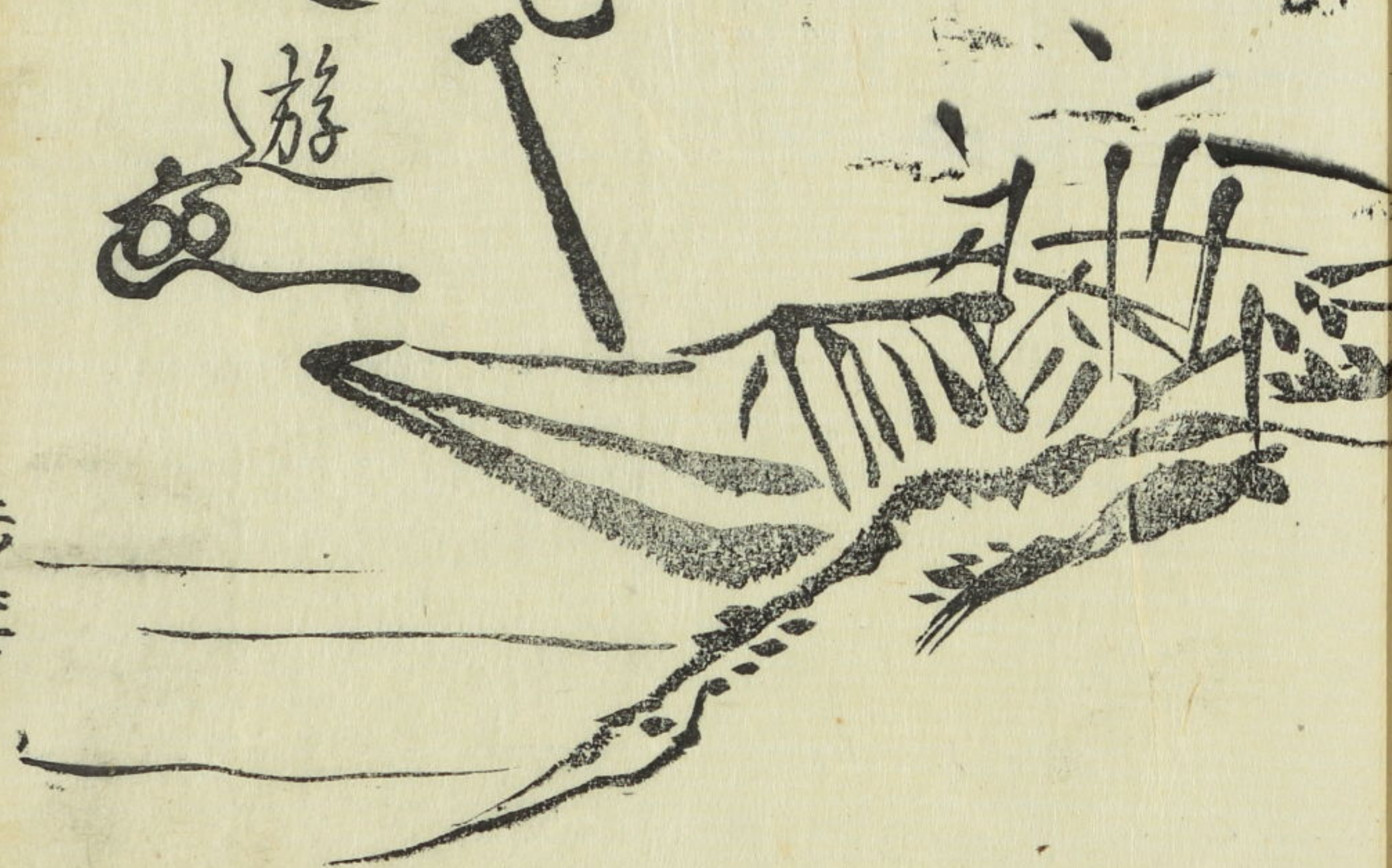
秋をこ

石

伴 概 山 如

まの 色

遷 遊



きのこの
 やし
 きのこ
 きのこ



きのこ
 きのこ
 きのこ

横濱

海老の

灯籠

伊吉

伊吉



伊吉

日中より

ついでに

とて

ニッ

自画

賛

柳島



庶幾

船

南

鳴海

假楽



三十九



八

八

八

八

八

八

冬庫有涯併類

無

印



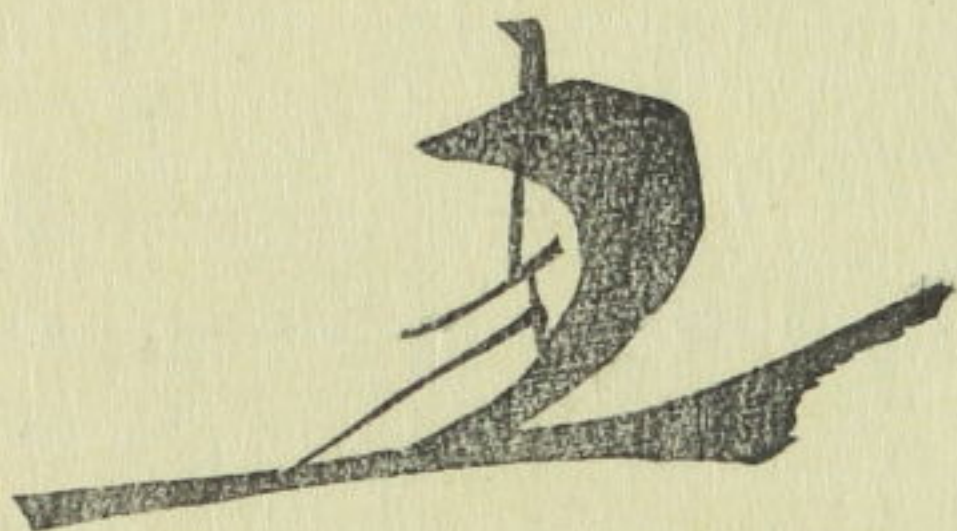
夕風ハ

夕風ハ

夕風ハ

夕風ハ

夕風ハ



旭山

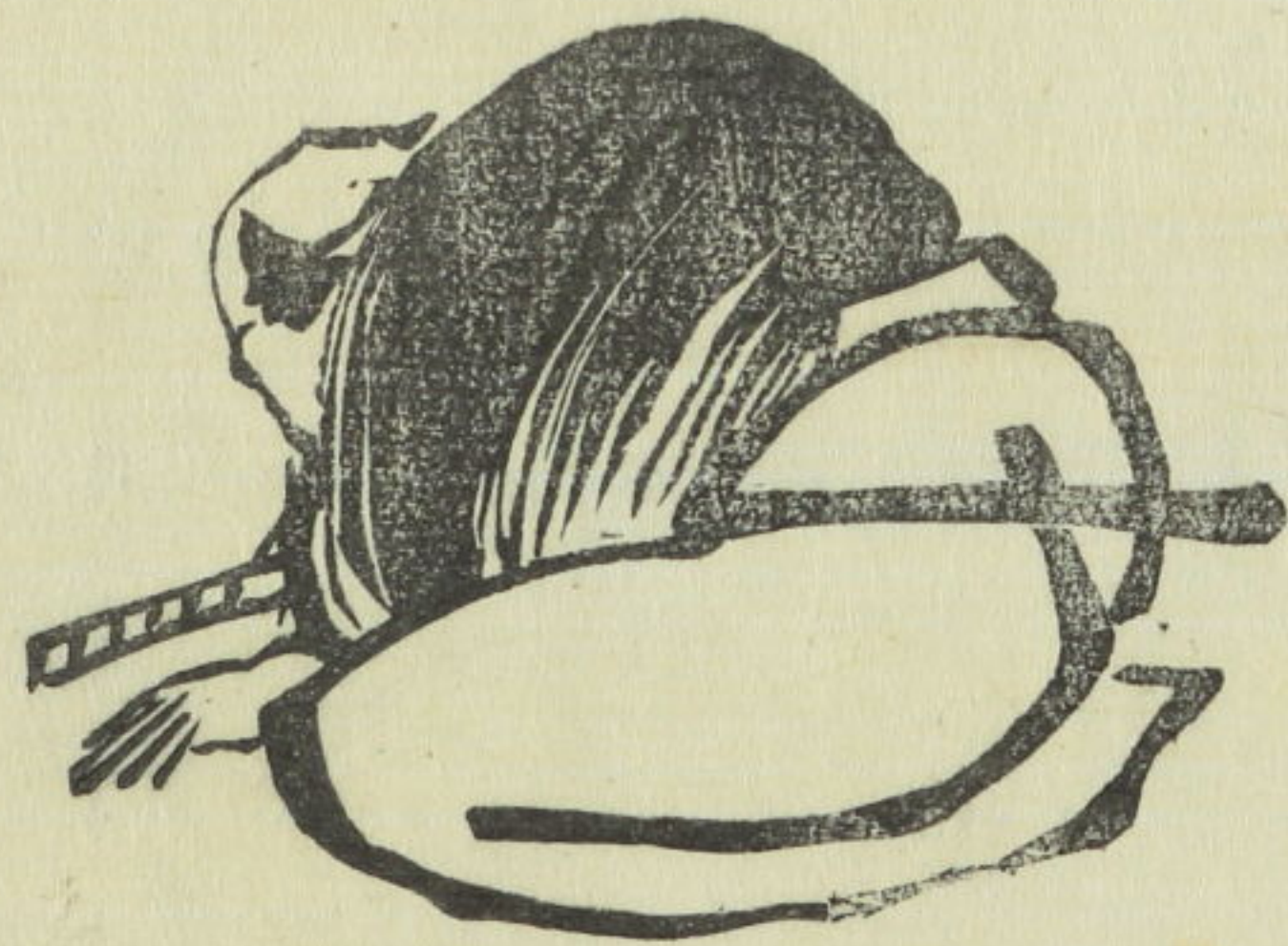


八

虫行器也

大上眉の

女侍



江田外田

芳亭

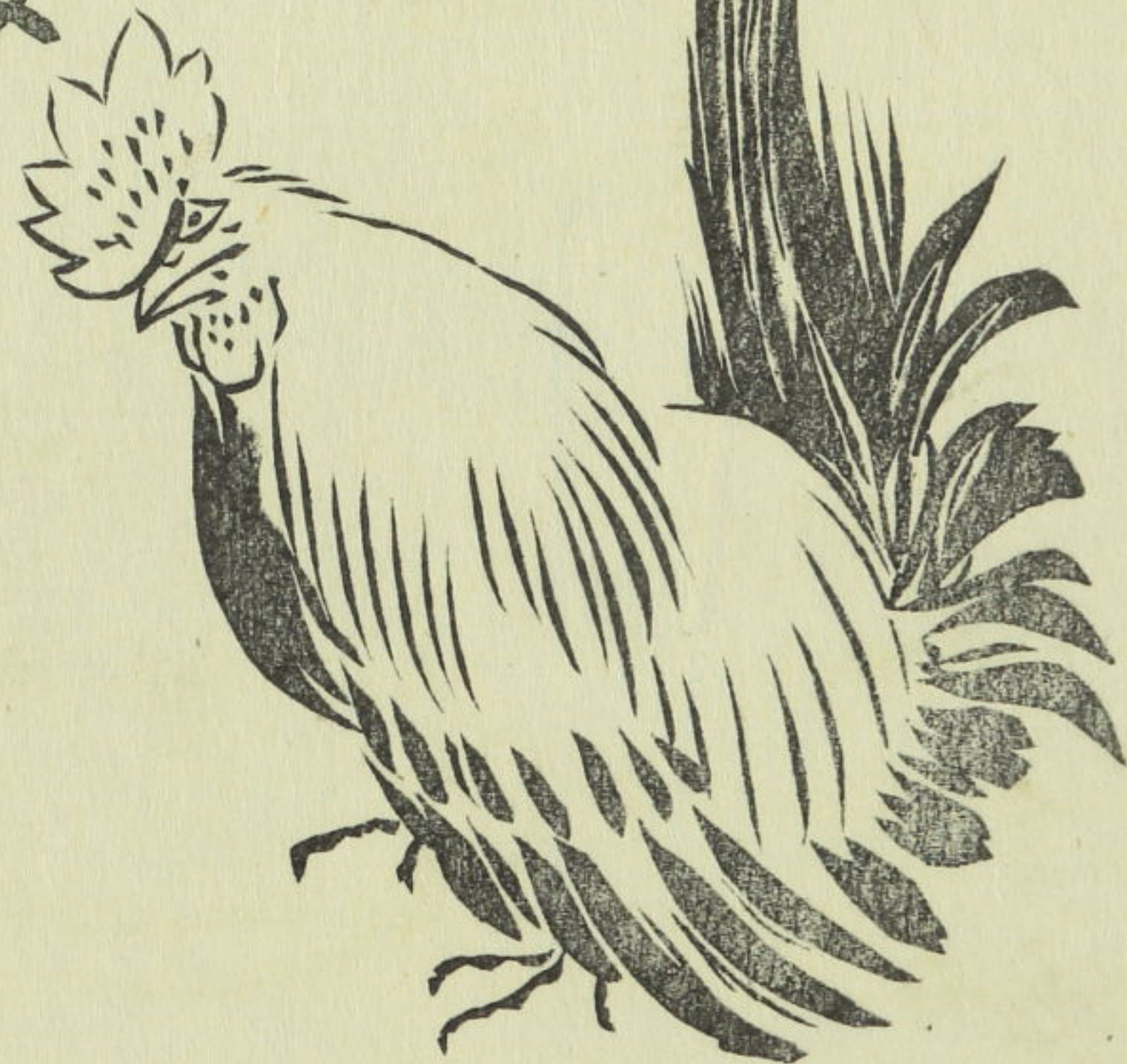
二四

秋風

行

月乃

入妻



山

鳥

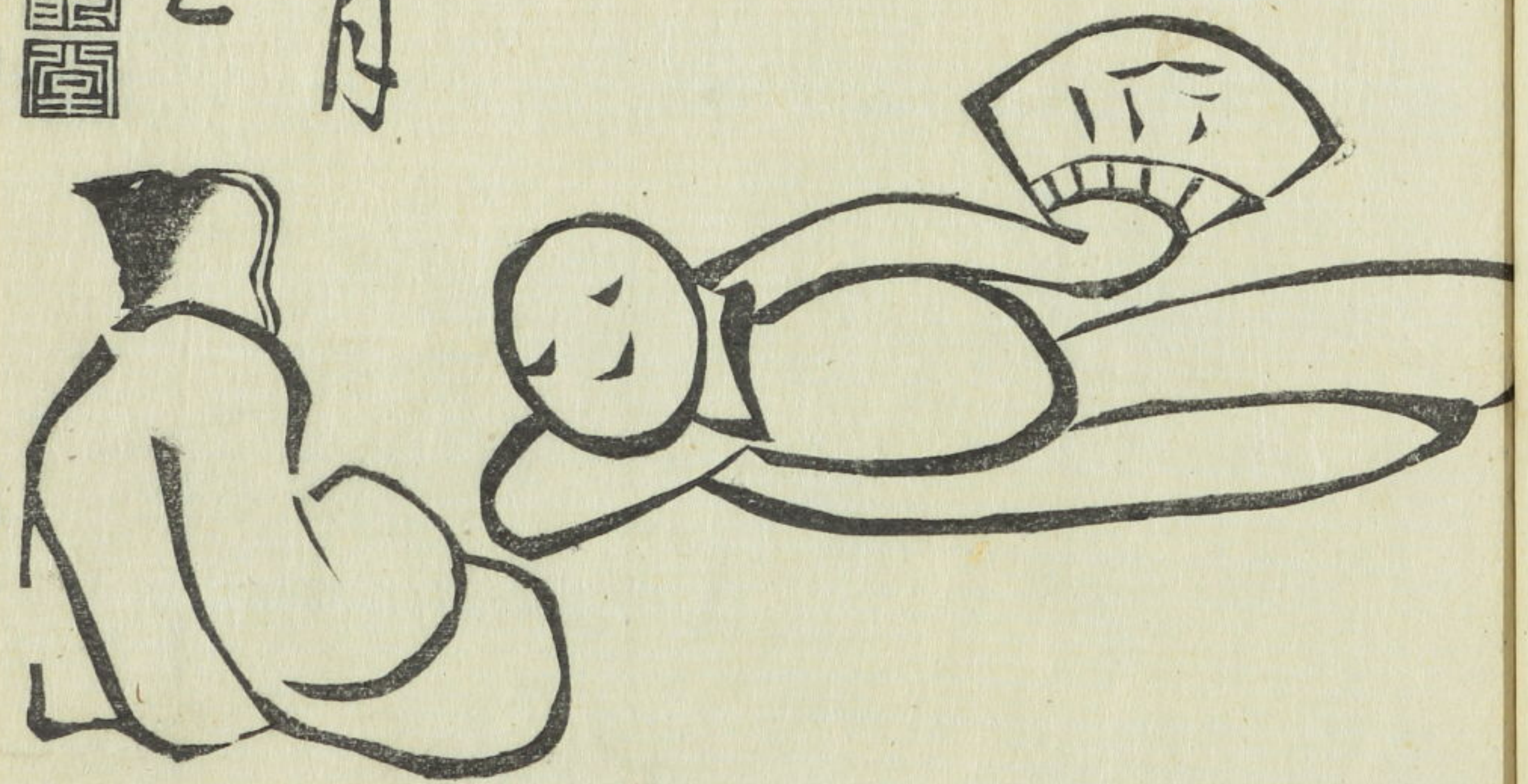


二四

人の人の乾り
きたりあり 秋の月

伊勢

省



深きやうり
かき残さる

名穂川

魚州

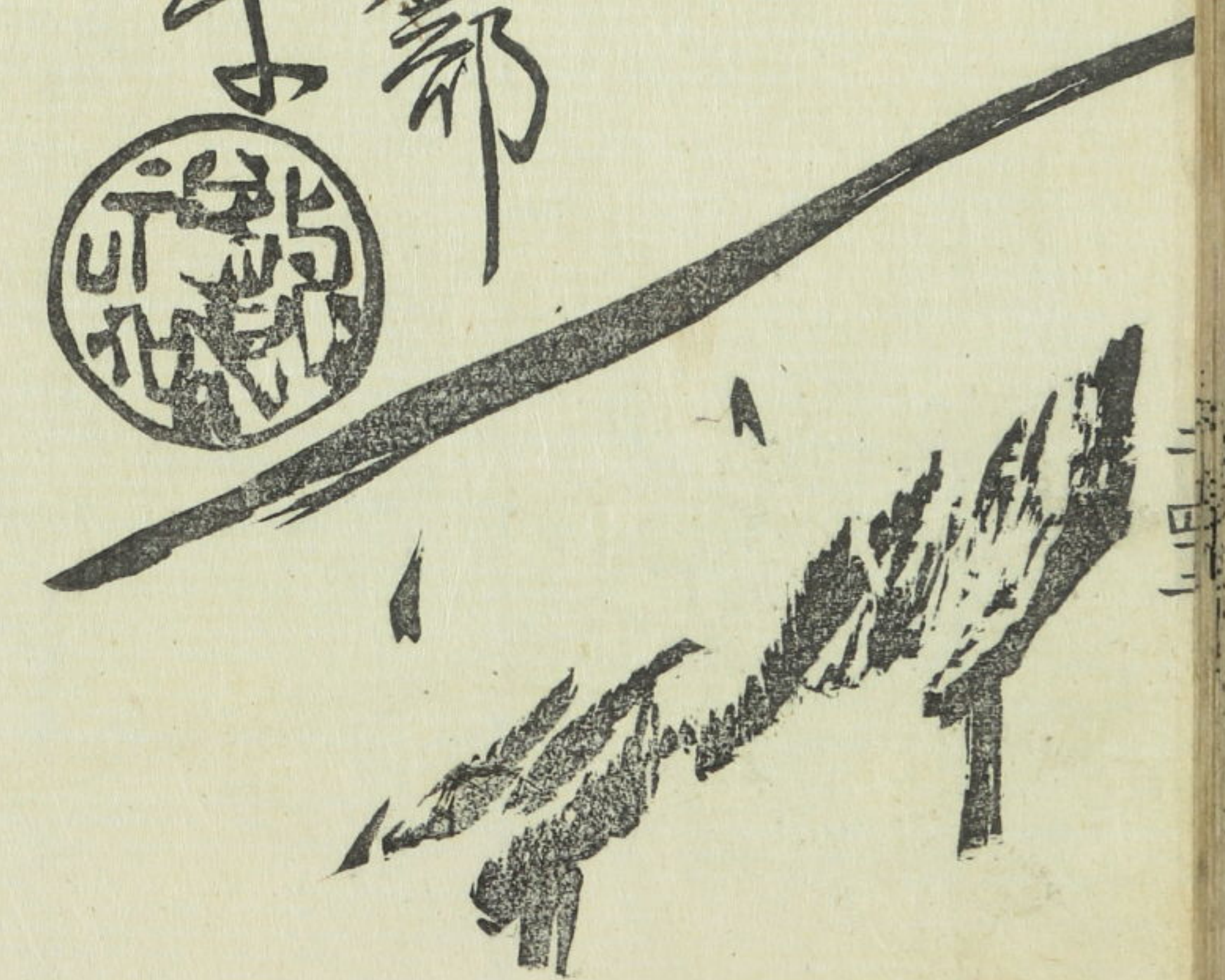


Handwritten calligraphy in cursive style (sōsho) on the upper left page. The characters are arranged in vertical columns, starting from the right side of the page and moving left. The ink is dark and the brushwork is fluid and expressive.



Vertical handwritten text on the right side of the left page, written in a smaller, more regular hand. The characters appear to be '仙臺' (Senzai) and '女系' (Nyūkei), likely referring to the artist's name or lineage.

Handwritten calligraphy on the upper right page. It features several vertical columns of characters. A prominent circular seal is stamped over the text, containing the characters '仙臺' (Senzai) in seal script. The overall style is cursive and elegant.



金月

好む事は

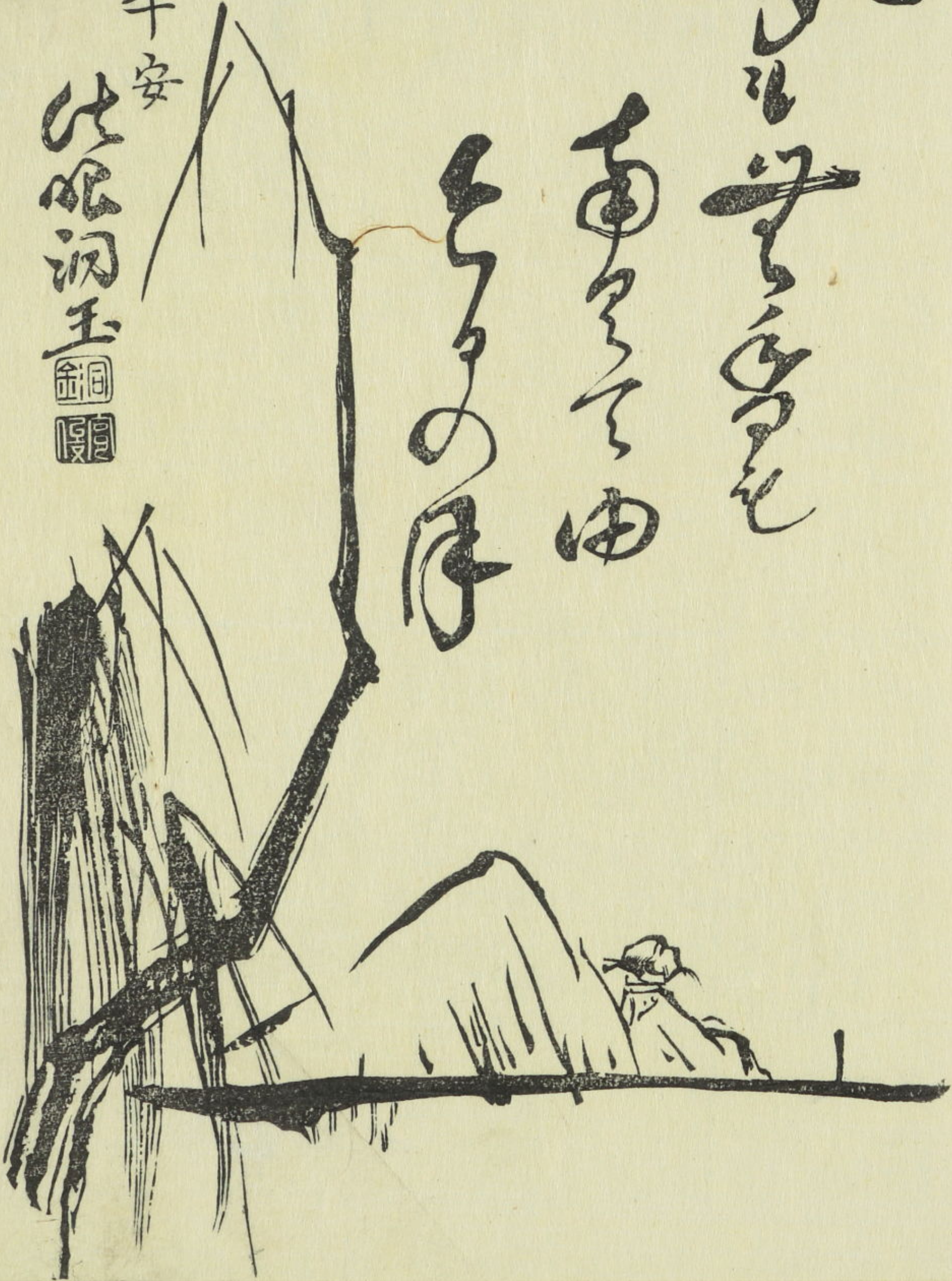
南の由

まの月

平安

此の玉

金月



くさ

啼



後

月あゝ山かゝる

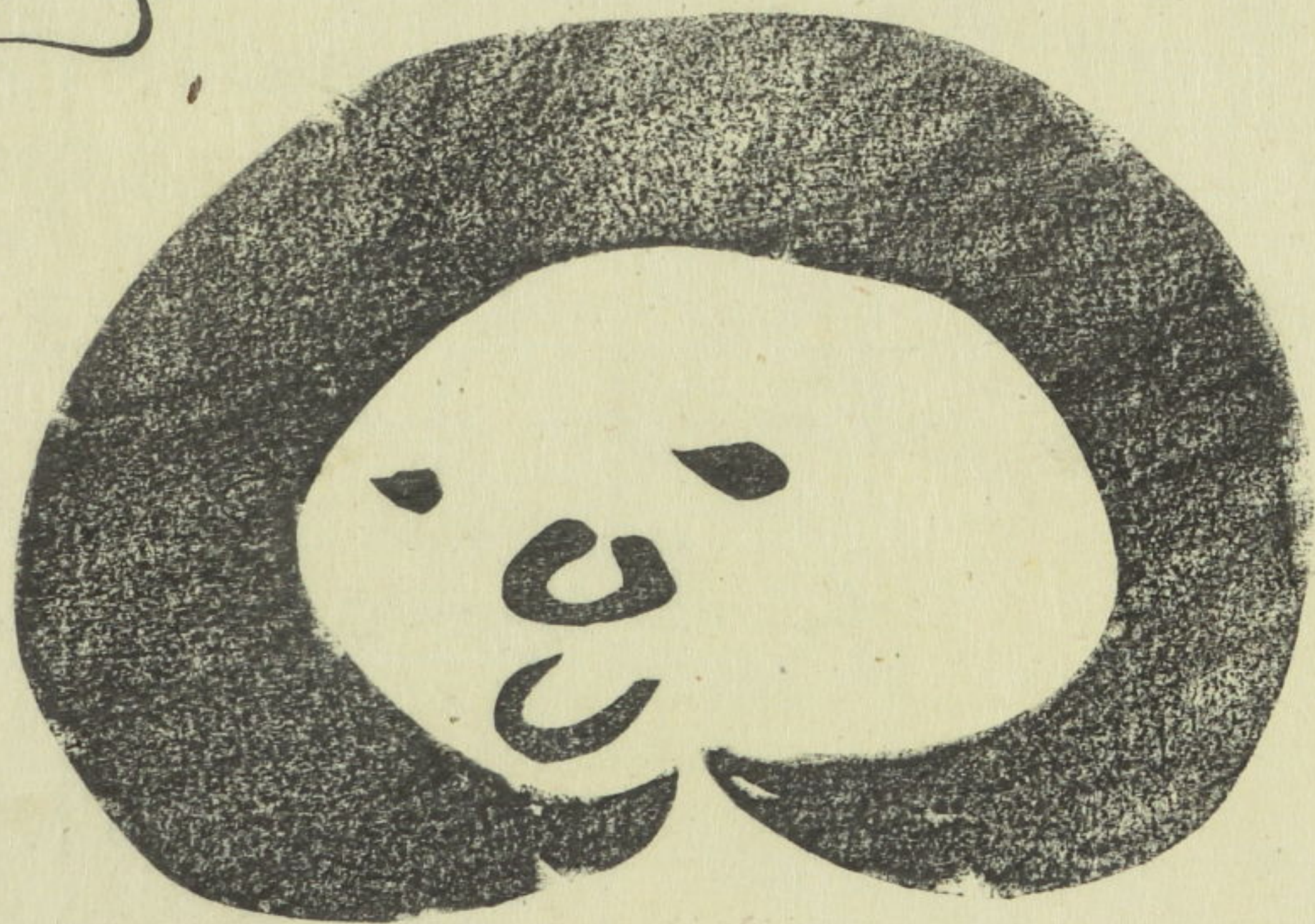
三十三

秋風也

山

海の光

伯



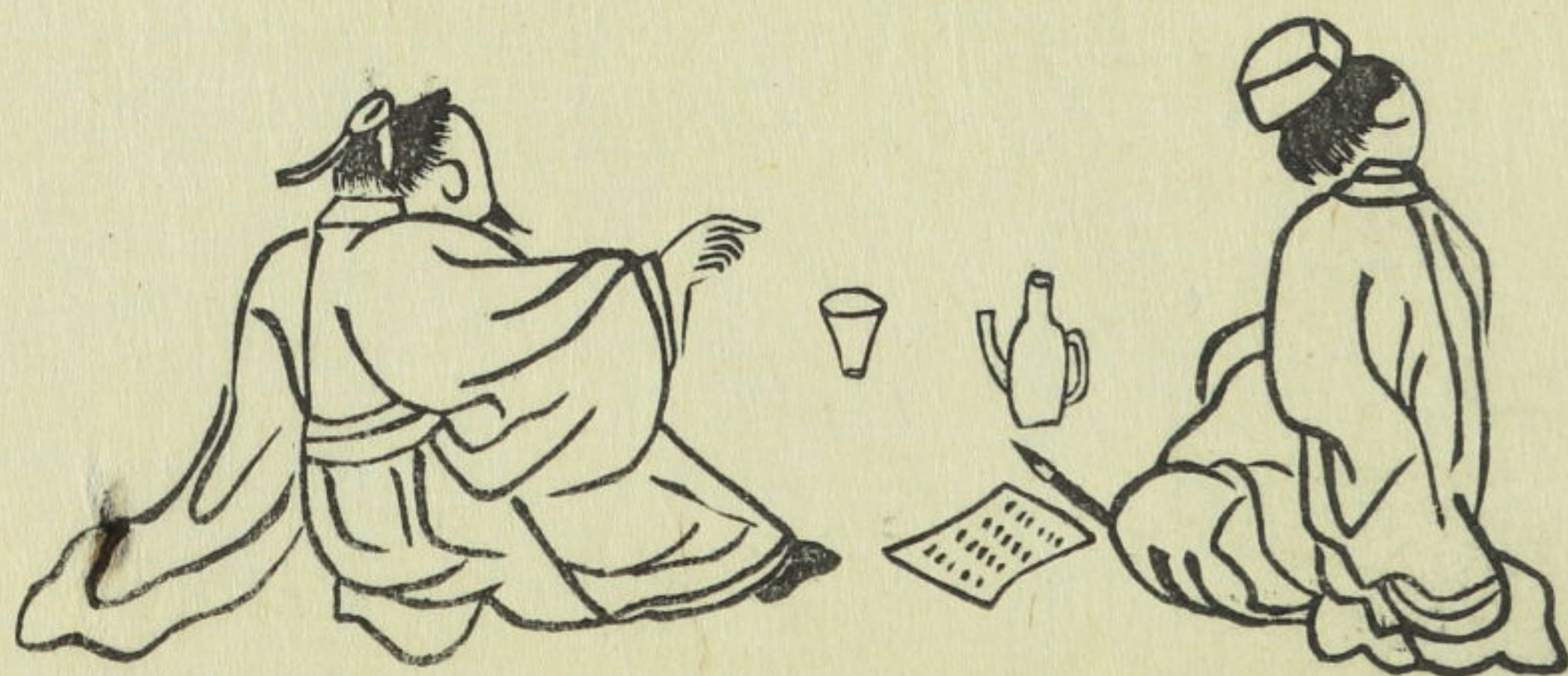
小

月のあふハ

うとも

うら

危
余橋



小

あはれ
 切な
 切な
 切な
 切な
 切な

切な



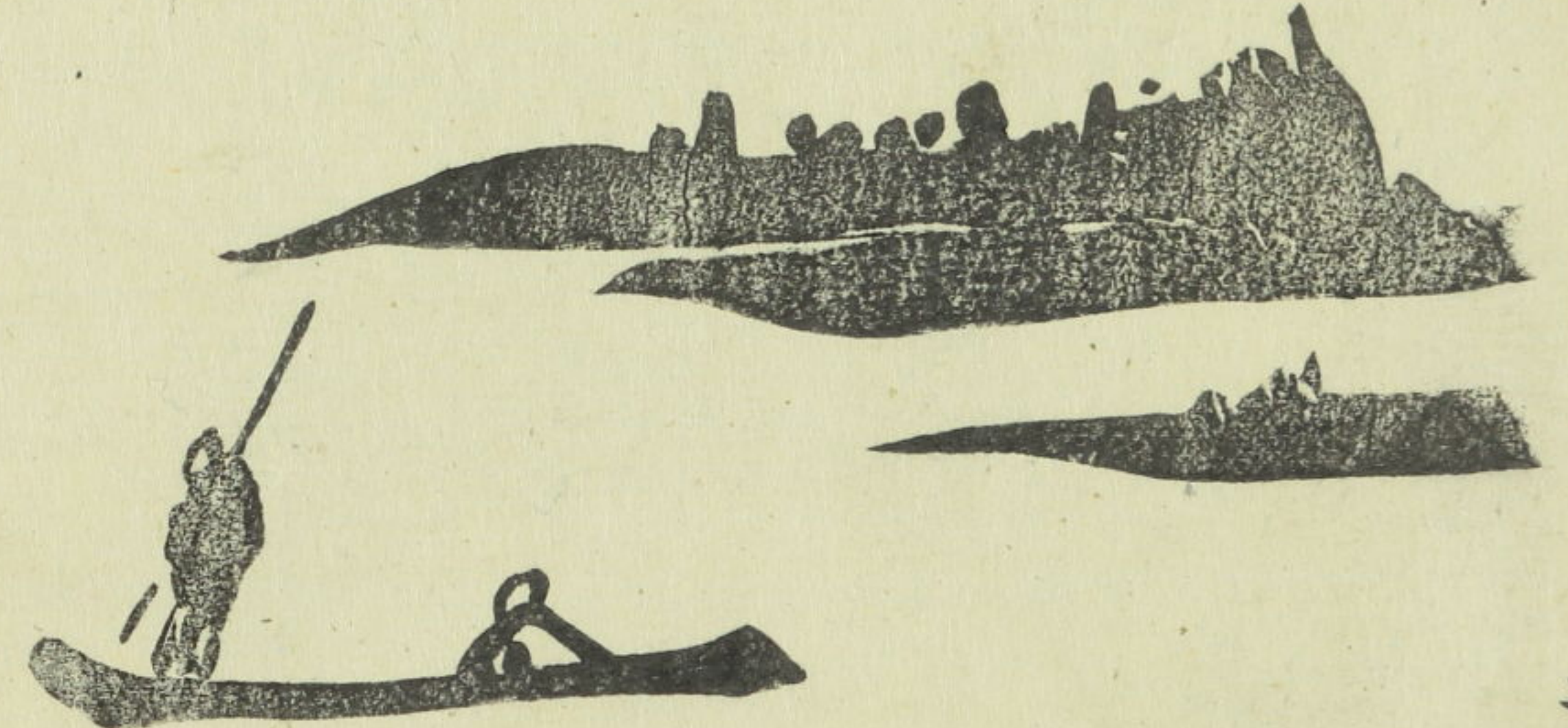
切な

切な

切な

切な

切な

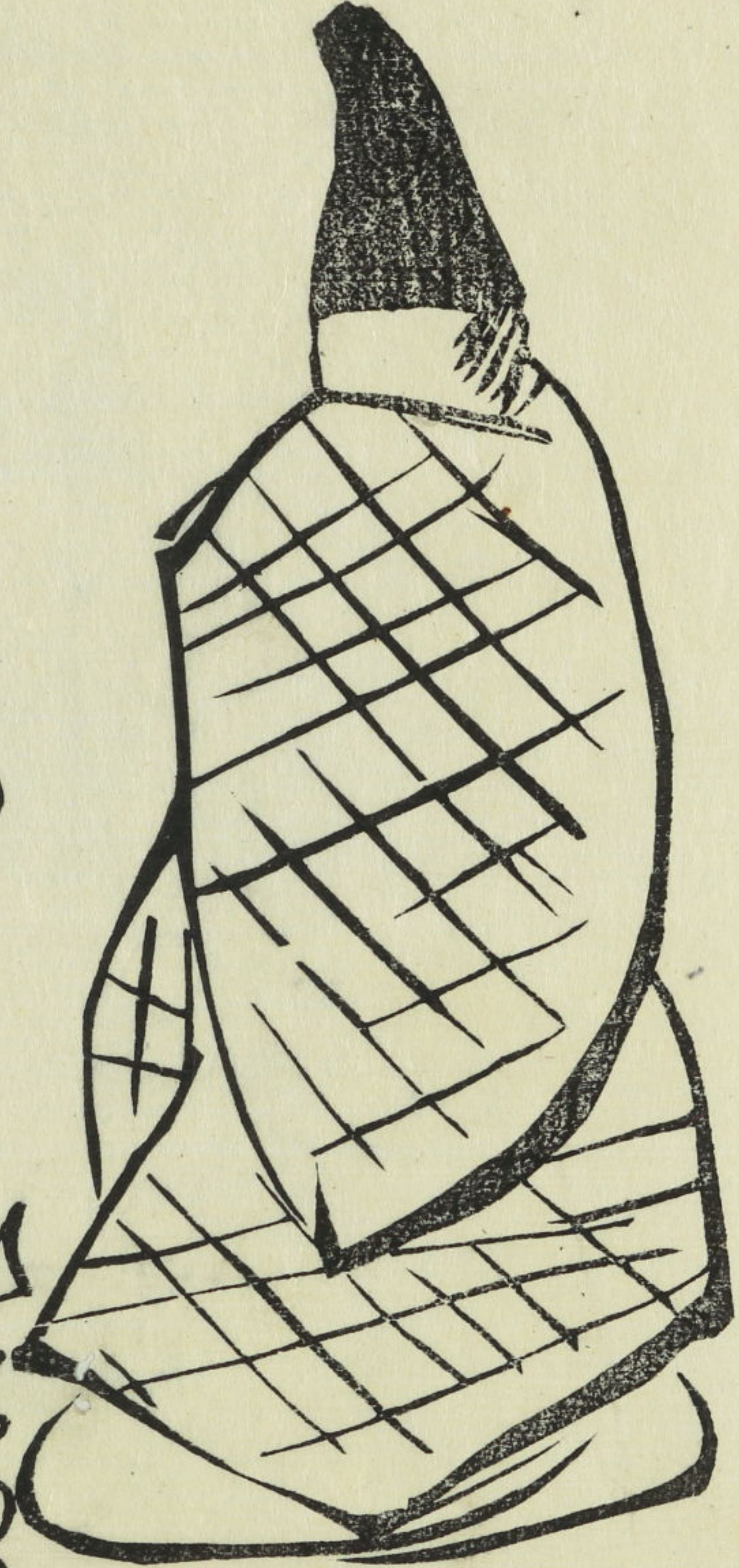


切な

切な

らあめめめ
 りあめめめ
 りあめめめ
 りあめめめ

ひらき



了
 りあめめめ
 りあめめめ
 りあめめめ
 りあめめめ
 りあめめめ
 りあめめめ
 りあめめめ
 りあめめめ

了
 りあめめめ
 りあめめめ
 りあめめめ
 りあめめめ
 りあめめめ
 りあめめめ
 りあめめめ
 りあめめめ

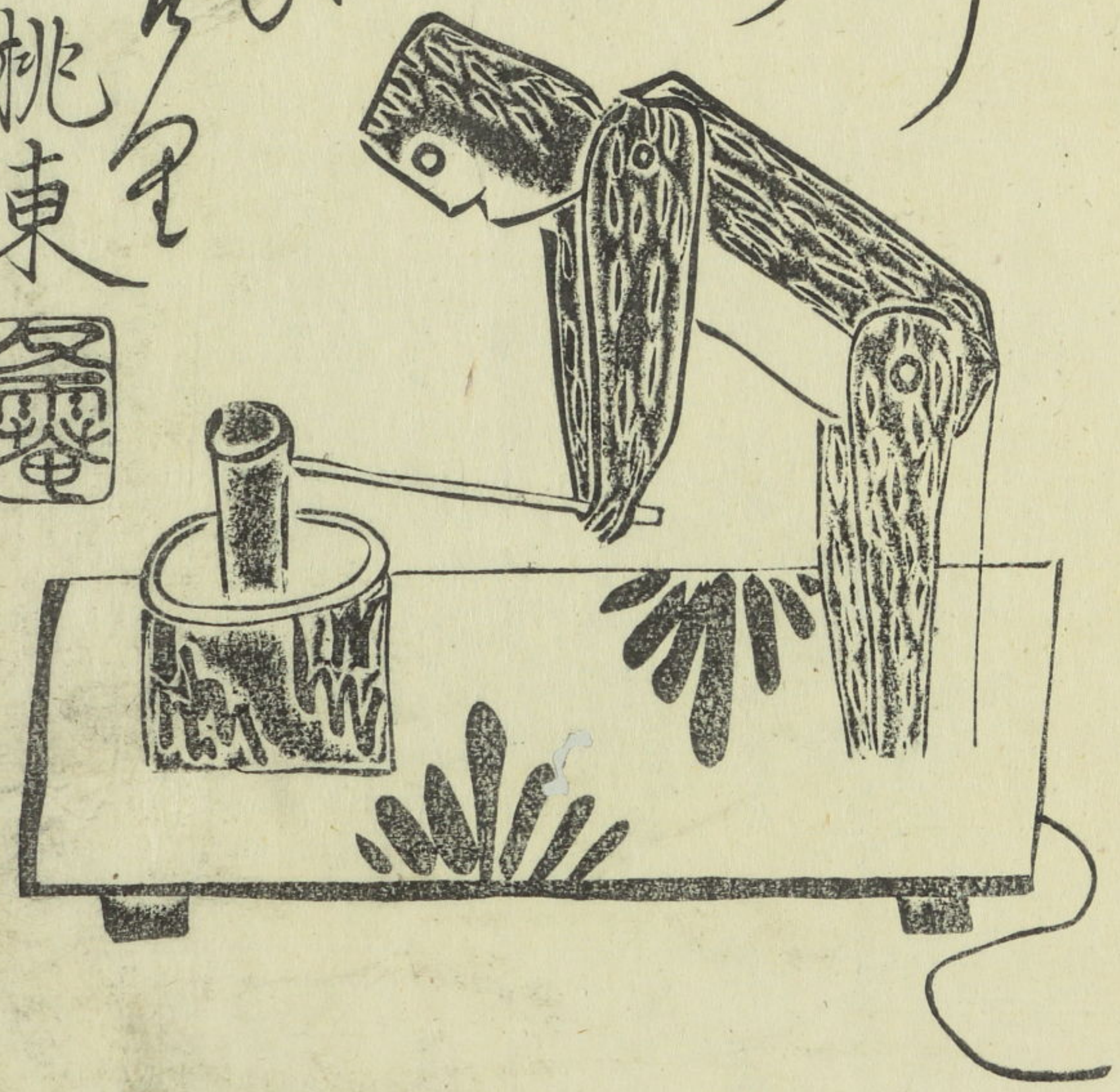
り
籠

近
江
の

人
城

戸
心

桃
東



純
の
善

何
多
知
元

か
ら
り
里

久
米

百
四





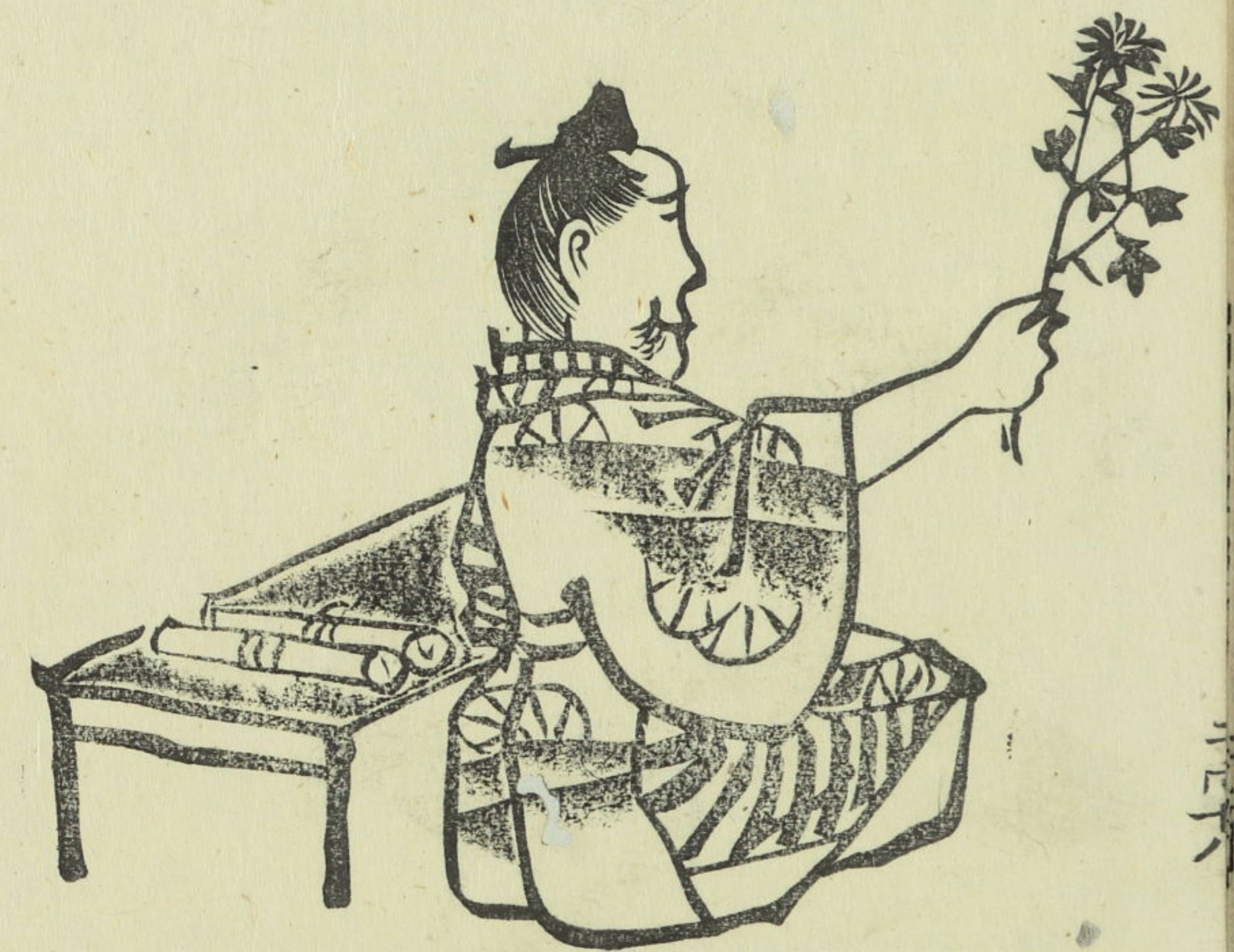
あつこく

たしなむ

そのまは

大坂

達堂画



大閑

月をるを松よ

かきふ

松の若



一 あり

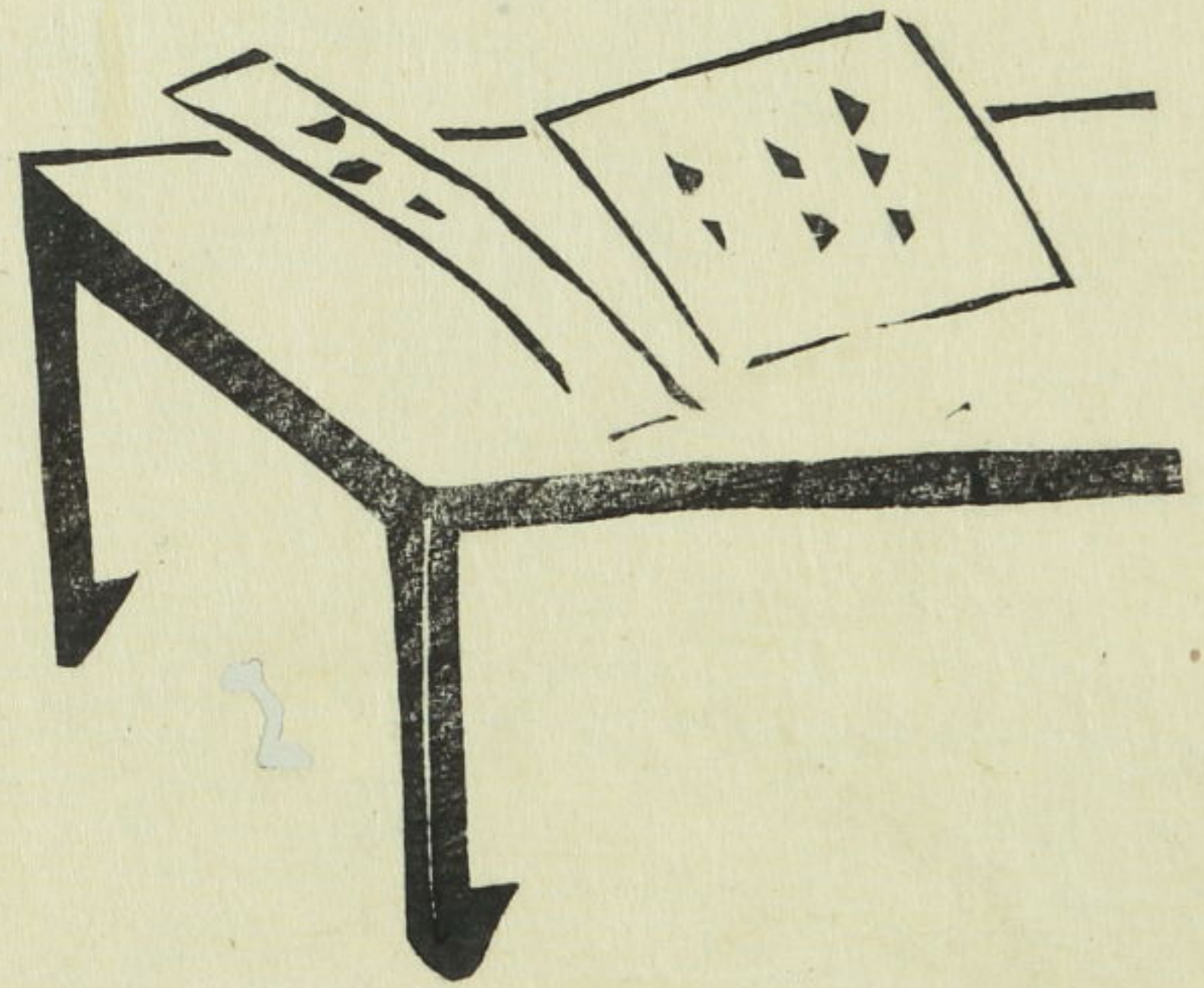
至 白

ち せ

白岩の志

三列奥郡

白岩



三集

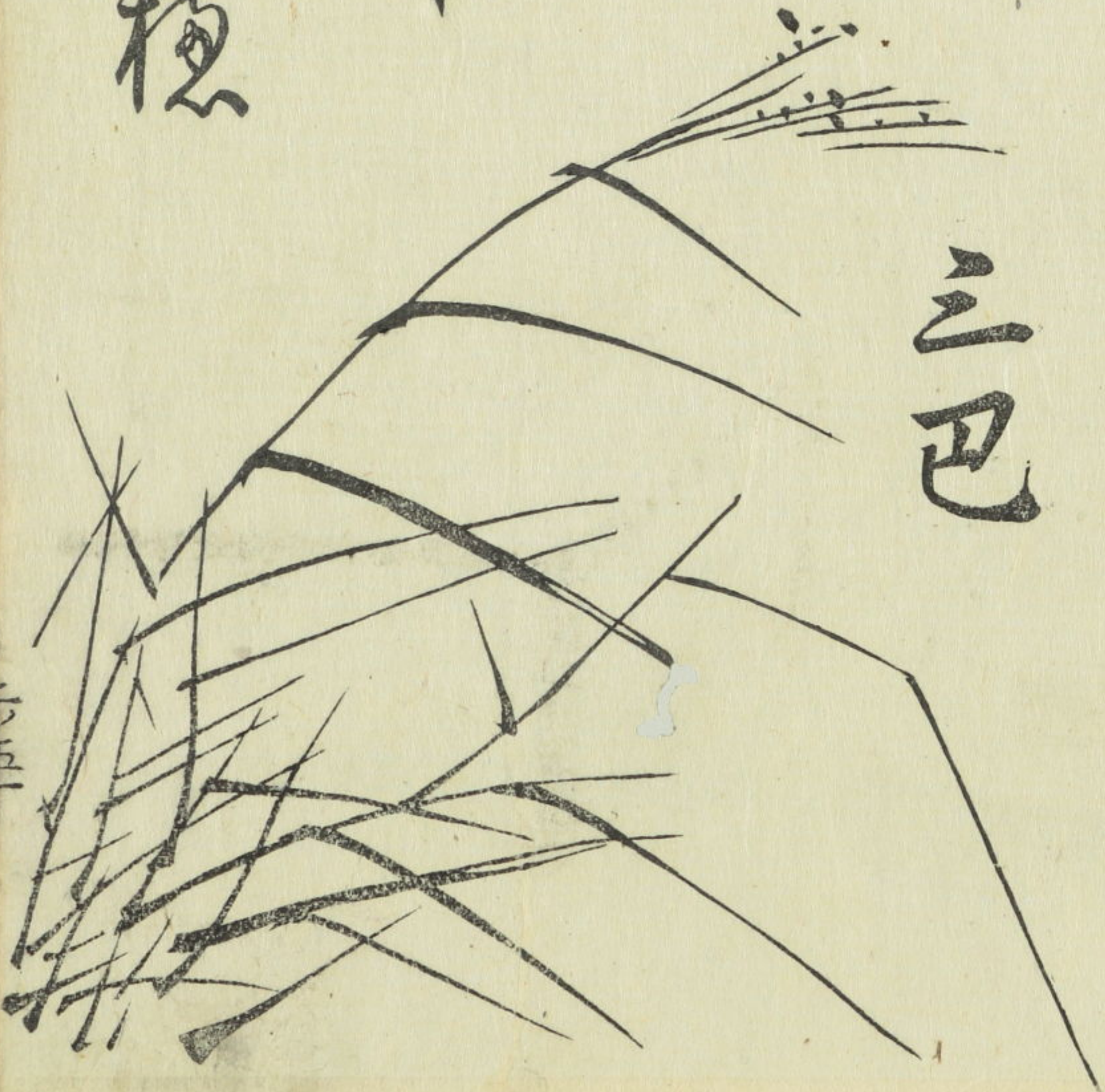
曉乃

空よ

つらや

芒の穂

三巴

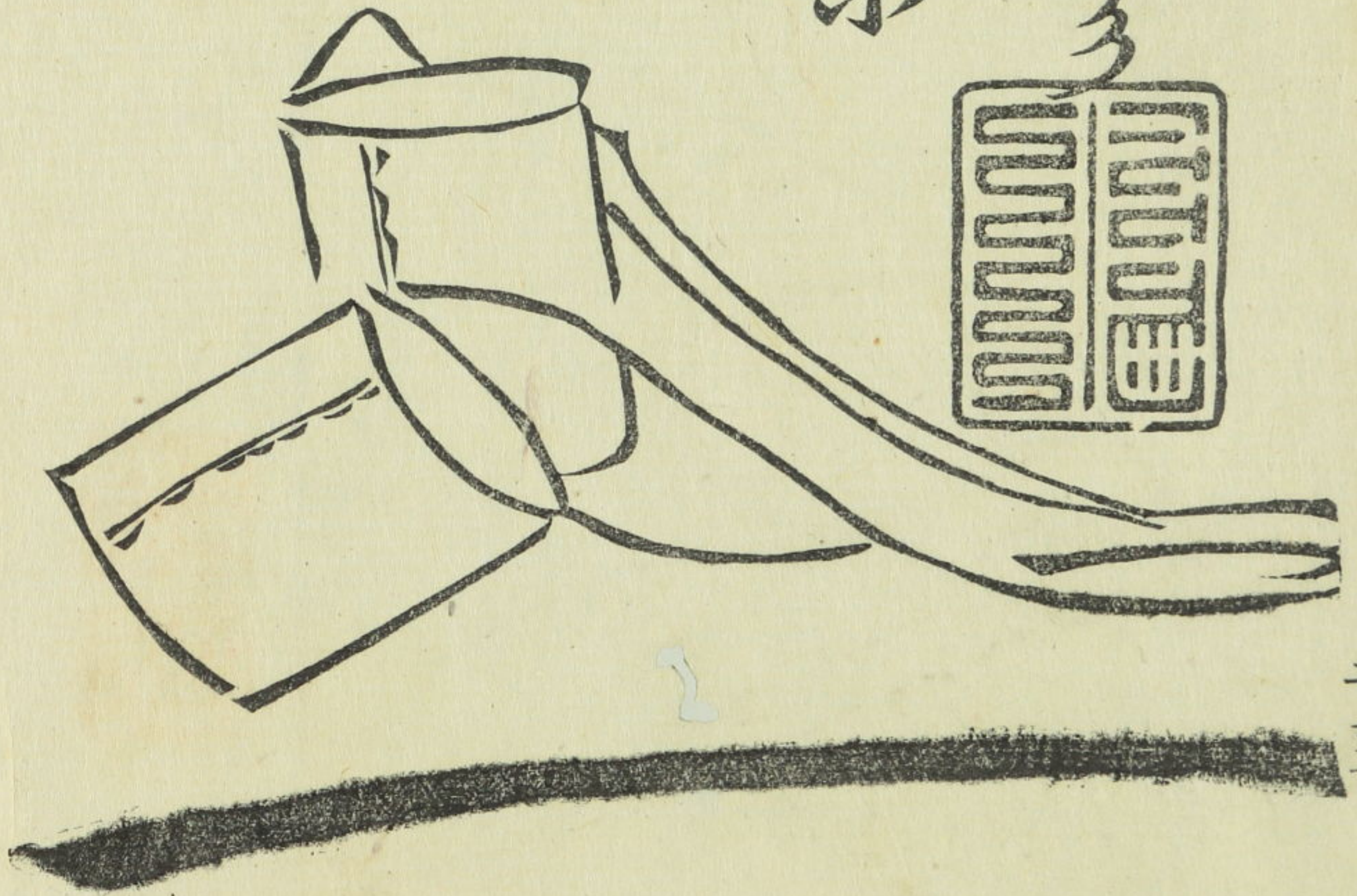
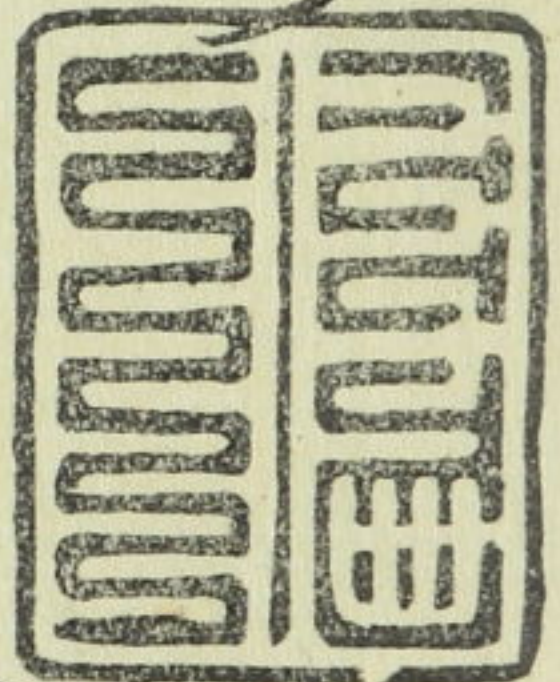


あまの月

潮衣

着る
きり

馬



月の句

古

笛吹

とぬの月



少年

乙五



つりくも

ひハ鶉

よ

後の雨

少年

陸四郎



大雪の雪は仲り年の春は哉可月

白権忍下り地せり

やほしからハあさうちりるる

不二見京

大板とれとよ

鳥人

川急や雪しり行

花より名介し跡乃
心色の寒くあらま

野々

降一出して

嗽流

根のなにいふや一廿五引

着し〜〜〜起り

阿雷

雪の軒舞い

深山木を以白志く〜〜〜

田實

日最中の

冬牡丹

かゝり母〜〜〜一士

山灰〜〜〜素〜〜〜

徳隆

か〜〜〜〜〜〜〜

三三三

山丈

つゝ一対高し
くさくさ見し

鶯 鶯 能 離 天

長 得

幼 也 驚 托 忘

呂 洲

三 報 後 也 雪 中 也 初 河 也

冬 此 月 乃 是 也 棠 棣

冬 此 月 乃 是 也

冬 此 月 乃 是 也 雪

氣 の け ち

南 李

雨 ち ち ち ち ち

四 日 市

南 李

大御所様へ

大車

御座り候

御座り候

御座り候

御座り候

雪積り候

御座り候

御座り候

御座り候

御座り候

其川

御座り候

御座り候

御座り候

御座り候

水師の内ふ

千鳥女切着の

都院

二口口口口口口口口口口

白之

二層かぶ

燈籠

柄まきまき布ぬき

大剛

朝明や青いほえきうぬ枯尾花

多々

青樓

物忌の袖

庚仙

青い

雪見

反席

若のふり顔や

は脈汁

生海嵐しを

垢をくえ

写門の流の

芳史

此より海邊や古なる雲の影

鴨雙

草の人の氷と

心寫

海に流れあはるりや

つらゆかお城

雨耕

三つがしら梅大

下つる雪の庭ハ

みくろと鶴の舞

不羨

掃帚の垣うゝあまの志をれり

糸と

水きく 舟 戸 舟 曉
多えん 人の 世の 影

鳥 鳴 隣
在 一 竹 の 店
一 葉

使 一 舟 の 世 世 世 自 在 谷
鳥 曉

心 憂 心 憂 心 憂
雲 漢

心 一 緯 糸

心 枯 亦 老 葉 舟 心 憂
漢 五 心 憂

心 一 心 憂
竹 風

心 一 心 憂 心 憂 心 憂

九の... 市川

政...

冬... 市川

山... 石...

山... 山...

今... 妻雄

大... 北日...

寛... 孫英

存...

奥山...

大...

日...

妻...

いかにいかに
いかにいかに

いかにいかに

海梅の字



いかにいかに

危舎

舟ありふのかん下
音舟

月夜のこ路埋へる能山
大原 函室

いかにいかに
いかにいかに

湖系安野村

いかにいかに
井の字

高平

高れ 樹尔 降の 煙

うつり

善の 山あから 冬の日 燈白

浪花

隨の 雲れ 雲乃 時雨 南 山

出社

葉の 札 花 軒

疾 舟 舟

か 山 岩 良

了 葉の 心 花 舟

考根 白 氏

有 舟 舟 舟

一室

鷹の爪雪の角の海に雀の爪の目

ふの海に味

鳥の

あせり
ちのちのち

初まののらうの海に味

十六
七

あせりの

葉の雪の角の海に雀の爪の目

湖東

雀の

うね

四歌あせりの
子もあせりの

に

降まののらうの
東の

十六

あせりの

る 軒の 窓 へ

ふりまらぬ 木と

はな

秋

垢 婦 録 や 火 の よき 巻

甲 子 年 正月 十日 卯 時 刻 録 之

